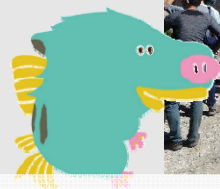


市民部会

「マイクロプラスチック」、
「ネオニコチノイド系農薬」に関する公開講座を開催



山部会

根羽村、豊田市、
恵那市、岡崎市で
フィールドワークを実施

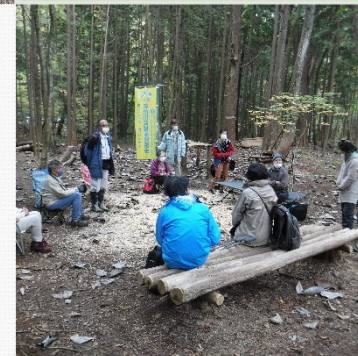


資料2



矢作川流域圏懇談会 第11回 全体会議

日時：令和4年2月21日(月)13:30~15:30



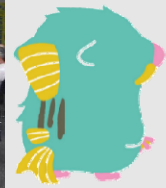
海部会

西尾市東幡豆海岸にて、
現地の生き物やゴミの状況を視察



川部会

鵜の首地区の掘削場所や時瀬地区の置土箇所を見学



国土交通省 中部地方整備局
豊橋河川事務所
山・川・海 流域一体で川づくり
矢作川流域圏懇談会

WEB会議に参加される皆さまへおねがい

下記の事項に留意してご参加ください

①本会議はWEB会議です

- 会議の開始・終了時刻を守りましょう。
- 意見交換のタイミング以外は、事務局、各座長のみの発言に限ります。

②意見交換時

- 本WEB会議システムには、「挙手」機能が搭載されています。意見のある方は、挙手ボタンを押してください。事務局もしくは座長が指名するまで、発言は控えるようお願いいたします。
- 多くの参加者が発言できるよう、発言時間は長くないようにしましょう。
- お互いの意見をよく聞き、それぞれの発言を尊重しましょう。
- 「チャット」機能を活用し建設的な議論を行いましょう。ただし、私語や談論は慎んでください。
- サテライト会場出席者で意見のある方は、会場にいる事務局の許可を得るようにしてください。

※マナーを守って参加してください。

遵守出来ない場合は退出していただくことがあります

全体会議の次第

1. 開会
2. 全体会議座長 あいさつ
3. 矢作川流域圏懇談会とは（設立要旨・規約・情報公開）
4. 今年度の活動目標と活動成果
 - (1) 今年度の活動目標
 - (2) 今年度の活動実績一覧
 - (3) 市民部会と地域部会の今年度の活動成果と次年度の活動目標
 - (4) 河川整備計画フォローアップ等について
 - (5) 意見交換①（今年度の活動に関するとりまとめ）
5. 矢作川流域圏懇談会の未来を考える
 - (1) 部会連携調整（通称：ミライ会議）について
 - (2) 今後の体制等について
 - (3) 意見交換②（今後の展望・全体のまとめ）
6. 情報共有・連絡事項など
7. 閉会

1. 開会

矢作川流域圏懇談会 第11回 全体会議

開 会

2. 全体会議座長 あいさつ

全体会議座長あいさつ

3. 矢作川流域圏懇談会とは

資料1 「矢作川流域圏懇談会」について をご参照ください

①懇談会設立の背景と目的

- ・矢作川水系河川整備計画（治水・利水・環境・土砂管理・維持管理・・・）の中に、民・学・官の連携・協働による取り組みが明記された。
- ・懇談会を設立することで、流域内の各組織のネットワーク化、河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る。

②設立要旨・規約

- ・平成22年8月28日制定→平成30年4月1日改定のもの

③矢作川流域圏懇談会の情報公開

- ・原則として「公開」（個人のプライバシーに関する議事は「非公開」）
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止策による予防措置を講じ、一般傍聴者や記者への対応等はしない。

3. 矢作川流域圏懇談会とは

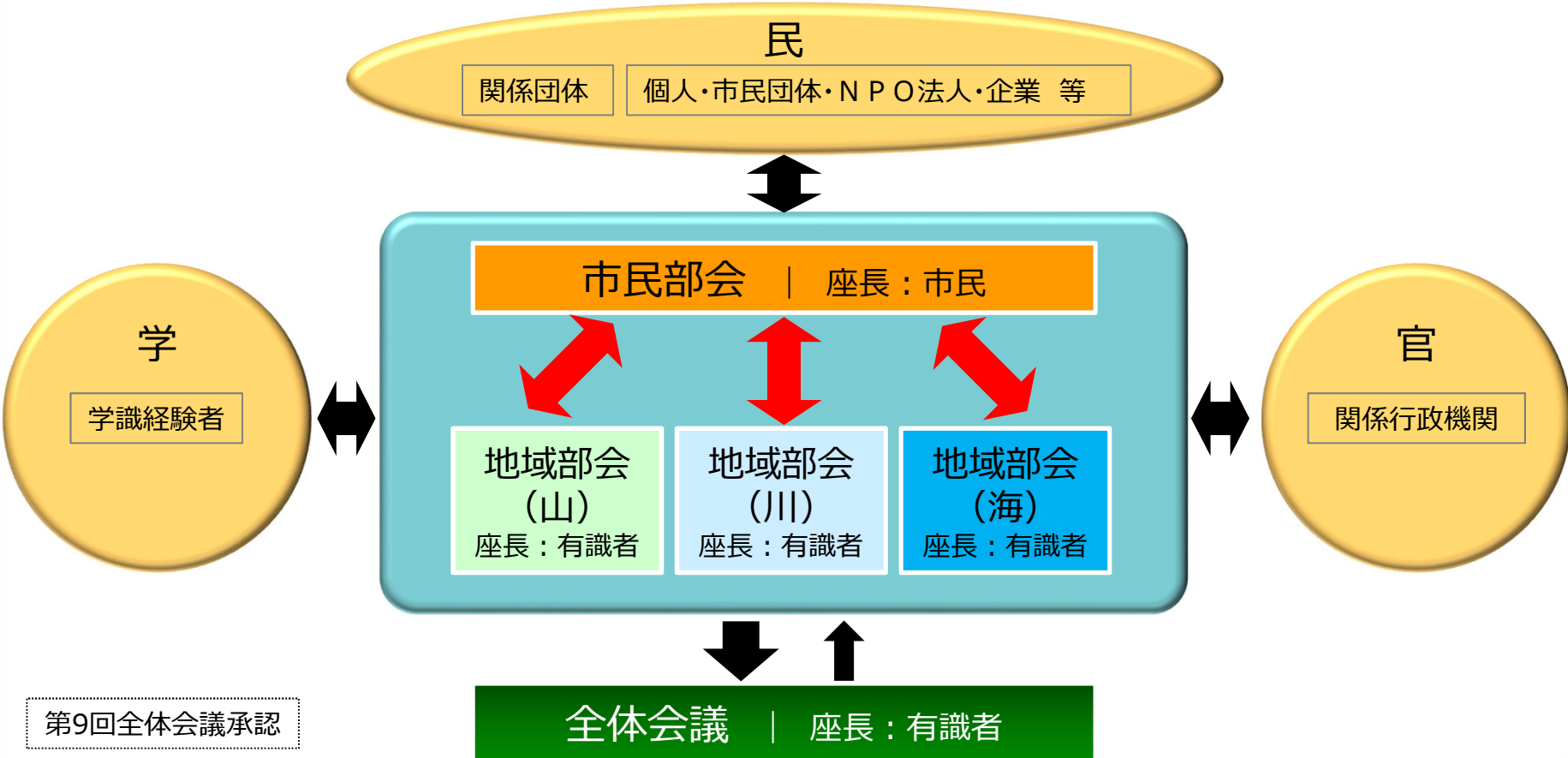
矢作川流域圏のあり方を検討する視点

“流域は一つ、運命共同体”

93組織 378名が登録 (R4.1時点)

懇談会発足時 (H22.10)
70組織 135名

- ①流域圏住民・関係者の連携強化
- ②流域圏住民の啓発活動
- ③行政と住民が連携した調査・研究の充実
- ④河川を中心とした流域の社会基盤形成及び地域の活性化



第9回全体会議承認

3. 矢作川流域圏懇談会とは

【懇談会の目的・運営方針】

懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

懇談会の運営方針

(1) 市民部会の活動の活発化

- 組織のあり方を見直し、市民部会主体のイベント、勉強会の計画を行う。

(2) 課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流

- 流域の課題解決に向けた具体的な行動を積極的に行う。
- 勉強会やイベント等を通し、山・川・海部会の関係者が協働する。

(3) 河川整備計画のフォローアップ

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取り組みを全体会議で共有し、意見交換を行う。

4. (1) 今年度の活動目標

【令和3年度の当初目標】

(1) 市民部会と地域部会（山・川・海）の取り組み

- これまでの各部会の活動成果を明瞭化することで、目標を明らかにしていく

部会	取り組み内容
市民	①地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する ②「マイクロプラスチック」「ネオニコチノイド系農薬」の2つのテーマで勉強会を実施する
山	①「流域圏担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマについて、引き続き情報共有と意見交換を行う ②4つのテーマの中で、共通する課題については、協働しながら解決策を議論する
川	①「本川モデル」「支川モデル」「地域連携モデル」の3つのテーマについて、複数のモデルにまたがる課題も出てきていることから、テーマの設定を見直すことも視野に入れ、情報共有と意見交換を行う
海	①今までの取り組みをふりかえりながら、「ごみの問題」「豊かな海の再生に向けた取り組み」「海と人の絆再生」「土砂の問題」の4つのテーマについて、情報共有と意見交換を行う。

(2) 河川整備計画のフォローアップ

- 河川整備計画のフォローアップの取り組みを通じて流域圏一体化につなげることを目指す。

4. (2) 今年度の活動実績一覧

会議名称	役割	今年度の実施日・回数
市民部会 (4回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 住民の視点から、具体的な課題の提起や課題解決のアイデア出しなどを行う ▶ 山・川・海の部会ごとの個別の課題や連携に向けた話し合いの場 ▶ 勉強会の企画について話し合いを行う場 	第9回：令和3年6月9日 第10回：令和3年8月18日 第11回：令和3年10月8日 まとめの会：令和3年12月8日
勉強会【公開講座】 (2回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 懇談会の中で挙げられた課題の解決を行う場、学びの場として市民部会発の勉強会を行い、知識の共有と相互理解を深める場 	第1回公開講座：令和3年7月31日 第2回公開講座：令和3年11月27日
流域連携イベント (2回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 流域一体化の取り組みに関するイベントへの主催・参加 	令和3年10月2日～3日 いい川・いい川づくりWS 令和3年10月24日 第8回三河湾大感謝祭
地域部会WG (9回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 必要に応じて開催し、具体的な課題への対応や協議・情報共有 	山：3回 川：3回 海：3回
地域部会まとめの会 (3回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 流域圏を山・川・海の3つに分け、それぞれの地域特性に応じた課題の明確化とその解決手法を話し合う ▶ 民・学・官の3者が公平な立場で意見交換・情報共有を行う場 	川：令和4年1月14日 海：令和3年12月14日 山：令和4年1月22日
部会連携調整 【通称：ミライ会議】 (5回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 山・川・海の一部メンバーで構成 ▶ 今後の矢作川流域圏懇談会を考える場 	第1回：令和3年8月27日 第2回：令和3年9月10日 第3回：令和3年10月13日 第4回：令和3年12月13日-14日 第5回：令和4年1月18日
全体会議 (1回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各部会で検討した課題やその解決手法を流域全体としてとりまとめ、情報を一元化するとともに、各部会へのフィードバックを行う ▶ 各部会で検討した内容を総合調整する場 	令和4年2月21日

4. (3) 市民部会・地域部会の活動進捗報告

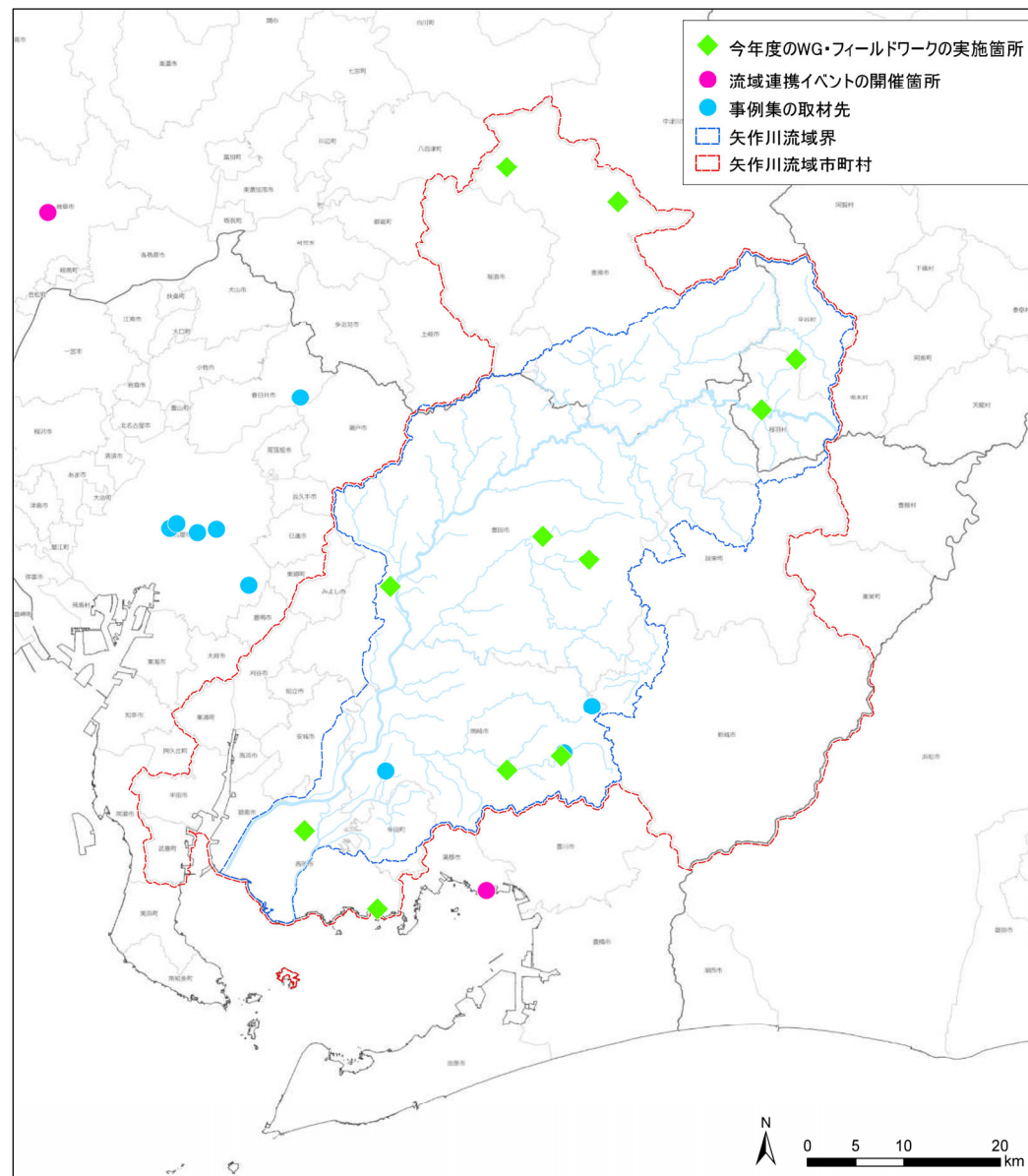
今年度の懇談会の活動・検討箇所

矢作川流域圏の上流から下流まで幅広く活動を行った。
また、流域圏を越えた交流や勉強会も行った。

◆ WG・フィールドワーク・勉強会の実施箇所
合計 11箇所 ※重複を除く
(市民部会、地域部会 (山・川・海))

● 流域圏担い手づくり事例集の取材先
合計 9 団体

● 流域連携イベントの開催箇所
・いい川・いい川づくりWS
(岐阜市)
・三河湾大感謝祭
(蒲郡市)



4. (3) 市民部会・地域部会の活動進捗報告

これまでの活動・検討箇所

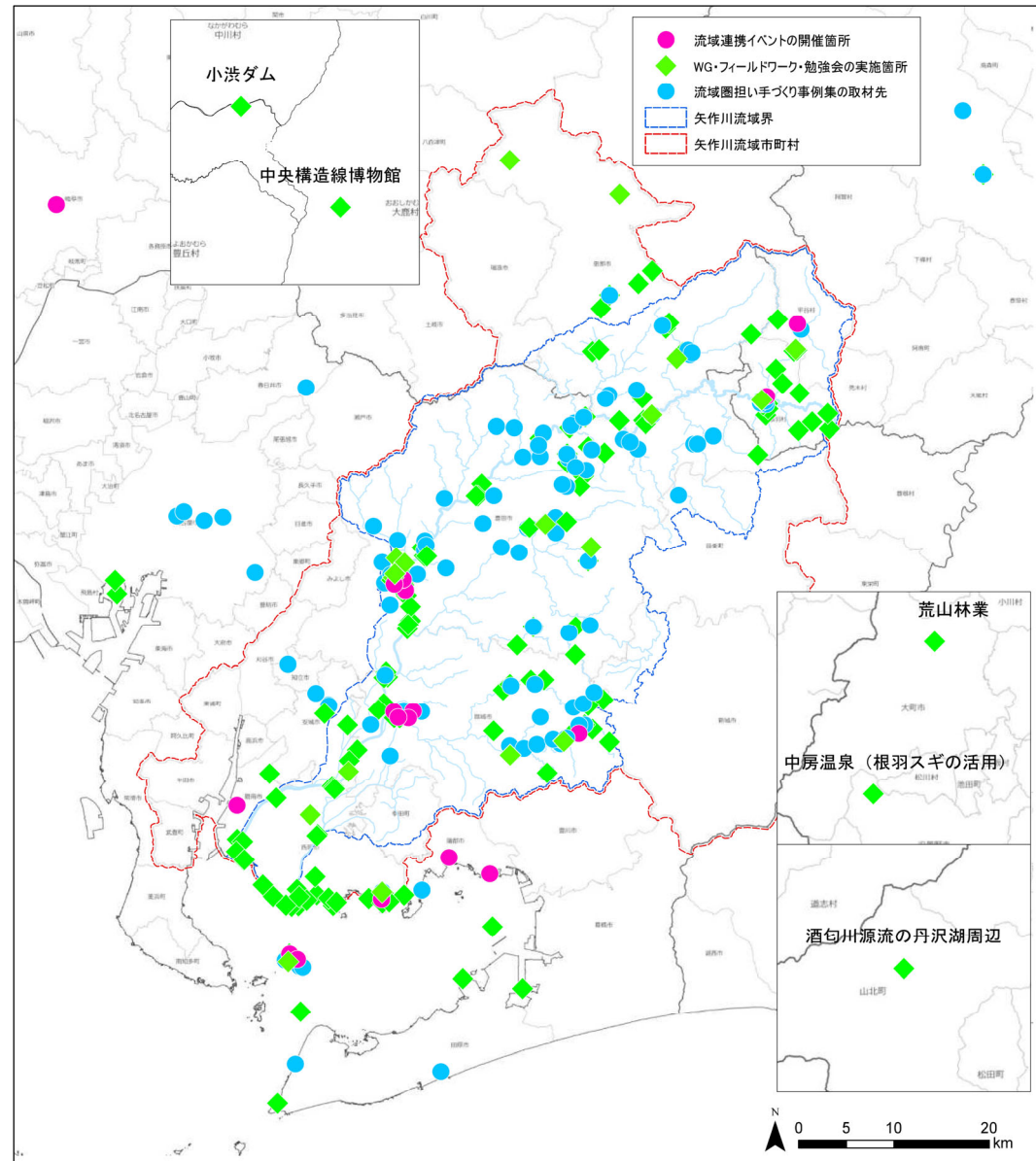
矢作川流域圏の上流から下流まで、幅広く活動を行った。
また、流域圏を越えた交流や勉強会も行った。

◆ WG・フィールドワーク・勉強会の実施箇所
合計 150 箇所 ※重複を除く
(市民部会、地域部会 (山・川・海))

● 流域圏担い手づくり事例集の取材先
合計 111 団体

● 流域連携イベントの開催箇所

- ・事例集交流会 (根羽村、西尾市、岡崎市)
- ・矢作川感謝祭 (豊田市)
- ・海ごみ減らそうフォーラム (岡崎市)
- ・三河湾大感謝祭 (蒲郡市、碧南市)
- ・いい川・いい川づくりWS (岐阜市)



4. (3) 市民部会の活動進捗報告

令和3年度の当初目標

- 地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する。
- 「マイクロプラスチック」と「ネオニコチノイド系農薬」の2テーマで勉強会を実施する。

市民部会の課題・役割

- 矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動
- 市民部会としての流域連携テーマの議論
- 地域部会の話題・課題を把握できるシステムの構築
- 10年間で新たに増えてきた課題や問題の明確化
- 懇談会とつながりの薄い農業や工業の団体との関係構築

山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる
～今新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

矢作川の恵み・大切さを再認識し、より良い矢作川流域圏の再構築を目指し、平成30年度のWGで作成しました。

4. (3) 市民部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動スケジュール

市民部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回、公開講座を2回実施した。

活動 (参加者数)	日 時	場 所
第9回WG (16名)	6月9日 (水) 14:00-16:00	・豊田市崇化館交流館2階 大会議室
第10回WG (12名)	8月18日 (水) 13:40-15:30	・豊田市崇化館交流館4階 第2会議室
第11回WG (13名)	10月8日 (金) 14:10-15:45	・豊田市崇化館交流館2階 大会議室
第3回市民部会 まとめの会 (15名)	12月8日 (水) 14:05~15:55	・豊田市崇化館交流館2階 大会議室
第1回公開講座 「マイクロプラスチックの 環境影響」(98名)	7月31日 (土) 15:00~17:00	・ZOOMウェビナーによるオンライン ・スタジオ会場：古民家カフェ"kabo"
第2回公開講座 「ネオニコチノイド系農薬 が及ぼす環境影響」 (87名)	11月27日 (土) 15:00~17:00	・ZOOMウェビナーによるオンライン ・スタジオ会場：トンボ研究所

※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

4. (3) 市民部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

今年度の活動目標に対する進捗状況

＜今年度に活動目標①：地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する。＞

- 昨年度の計画を踏襲し、再度日程調整を行うとともに、地域部会において内容の再検討を行った。次年度、新型コロナウイルスの感染状況をふまえ、再度設定・実施する。

【名称】山から海まで2日がかりの「矢作川の全て」バスツアー

【計画日】11月25日(木)・11月26日(金)の2日間、各々日帰りとして計画

【想定参加人数】50人程度(※参加は矢作川流域圏懇談会のメンバーに限定)

⇒新型コロナウイルス感染防止のため、再度延期とした

1日目 令和3年11月25日(木)

時刻	場所	詳細	担当部会
8:45集合	豊田市駅		
9:00出発	東口ロータリー集合		
	↓	移動(60分)	
10:00到着	水源涵養モニタリング調査サイト(豊田市大洞町)	水源涵養モニタリングサイトの成果報告(60分) 解説者: 蔵治光一郎様 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)	山部会
11:00出発		移動(60分)	
12:00到着	奥矢作レクリエーションセンター(恵那市串原)	昼食・休憩(40分) ※昼食のみ体育館 奥矢作移住定住促進協議会の活動報告(40分) 解説者: 大島光利様 (奥矢作移住定住促進協議会 会長)	山部会
14:00出発		つくラッセルの活動報告(40分) 解説者: 戸田友介様(株)M-easy代表取締役社長) → 時瀬地区の置土実験結果	
	↓	矢作ダムを見学しながらマイクロバスで移動(60分)	川部会
15:00到着	阿摺ダム(豊田市富田町)	阿摺水力発電所について(45分) 解説者: 北井和人様 (中部電力(株)愛知水力センター 副長)	川部会
15:45出発		移動(15分)	
16:00到着	阿摺ダム下流部(豊田市富田町)	天然アユの生態調査の成果報告(60分) 解説者: 山本敏哉様 (豊田市矢作川研究所 主任研究員)	川部会
17:15出発		移動(30分)	
17:45到着	豊田市駅		
18:00解散			

2日目 令和3年11月26日(金)

時刻	場所	詳細	担当部会
8:45集合	豊田市駅		
9:00出発		移動(20分) 鶴の首狭窄部の事業説明	
9:20到着	明治用水頭首工(豊田市室町)	明治用水頭首工における治水・利水の問題について(30分) 解説: 落河崇征様 (豊田市河川課 副課長)	川部会
9:50出発		移動(10分)	
10:00到着	安永川トンネル(豊田市今町)	安永川トンネルに関する治水の問題や魚の移動経路(30分) 解説: 落河崇征様 (豊田市河川課 副課長)	川部会
10:30出発		移動(10分)	
10:40到着	家下川(豊田市樹塚東町)	家下川でのこれまでの取り組みについて(45分) 解説者: 酒井博嗣様 (豊田市文化財課)	川部会
11:25出発		移動(65分) 昼食・休憩(60分)	
13:30到着	矢作川浄化センター(西尾市港町)	矢作川浄化センターの取り組みについて(60分) 解説: 青山 様 (愛知県西三河建設事務所 都市施設整備課)	海部会
14:30出発		移動(30分)	
15:00到着	(仮)東幡豆海岸(西尾市東幡豆町)	(仮)三河湾の漁獲量・次世代の担い手の現状について(30分) 解説者: 石川金男様 (東幡豆漁業協同組合 組合長)	海部会
15:30出発		移動(30分)	
16:00到着	西尾駅		
	↓	移動(60分)	
17:00到着	豊田市駅		
17:10解散			

4. (3) 市民部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

今年度の活動目標に対する進捗状況

＜今年度に検討した目標②：「マイクロプラスチック」「ネオニコチノイド系農薬」の2つのテーマで公開講座を実施する＞

○ 計画どおり、2つのテーマの公開講座を実施した。

～①マイクロプラスチックが及ぼす環境影響～

実施時期：令和3年7月31日（土）15:00～17:00
 講師：四日市大学環境情報学部 教授 千葉 賢氏
 参加者：98名（ZOOM参加者77名、会場参加者21名）

～②ネオニコチノイド系農薬が及ぼす環境影響～

実施時期：令和3年11月27日（土）15:00～17:00
 講師：神奈川県立生命の星・地球博物館 苅部 治紀氏
 参加者：87名（ZOOM参加者78名、会場参加者9名）

no more Plastic

microplastics

あなたは
マイクロプラスチック問題の
原因を作っていませんか？

プラスチックが
生き物を苦しめている

講師
千葉 賢氏
四日市大学環境情報学部 教授

令和3年 7月31日 (土) 15:00～17:00

開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名

参加無料

申込方法
①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村
を必ず明記のうえお申込み下さい。

お申込みいただいた方に講座で使用する Zoom の URL をお知らせします。
 申込期限：7月21日（水）17:00 まで

主催 矢作川流域圏懇談会 共催 国土交通省 豊橋河川事務所 講師 0532-48-8107

プラスチックが
生き物を苦しめている

四日市大学環境情報学部
千葉 賢

2021年7月31日 矢作川流域圏懇談会 公開講座

いま、水の中で何が起きているのか？

アカトンボが危ない!

「ネオニコチノイド系農薬」を
使い続けることによる
生態系への影響

水田に生息するアキアカネなどのトンボ類の減少にネオニコチノイド系農薬の使用が関係しているということが、最近の研究により明らかになってきています。ネオニコチノイド系農薬の影響は水田のトンボ類だけでなく、各種生物に及ぶことも明らかになりつつあります。また、山溪の湧水、地下水などでネオニコチノイド系農薬が検出されており、水田から近郊にいたる水系全体への汚染の拡大が懸念されています。世界的な動きとして、EUでは、一部の作物に対して、3種類のネオニコチノイド系農薬の使用が制限されていますが、日本では未だに大量に使用されているのが現状です。

本講座では、神奈川県立生命の星・地球博物館の苅部氏を講師に招き、ネオニコチノイド系農薬のトンボ類をはじめとした生物への影響の実態などについてお話しいただきます。

講師
苅部 治紀氏
神奈川県立 生命の星・地球博物館 主任学芸員

令和3年 11月27日 (土) 15:00～17:00

開催方法 ZOOM ウェビナーによるオンライン開催 定員 500名

参加無料

申込方法
①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村
を必ず明記のうえお申込み下さい。

お申込みいただいた方に講座で使用する ZOOM の URL をお知らせします。

主催 矢作川流域圏懇談会 共催 国土交通省 豊橋河川事務所 講師 0532-48-8107

矢作川流域圏懇談会 公開講座

アカトンボが危ない!

令和3年 11月27日 (土) 15:00～17:00

開催方法 ZOOM ウェビナーによるオンライン開催 定員 500名

参加無料

主催 矢作川流域圏懇談会 共催 国土交通省 豊橋河川事務所 講師 0532-48-8107

矢作川流域圏懇談会 公開講座

プラスチックが
生き物を苦しめている

令和3年 7月31日 (土) 15:00～17:00

開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名

参加無料

主催 矢作川流域圏懇談会 共催 国土交通省 豊橋河川事務所 講師 0532-48-8107

4. (3) 市民部会の次年度の活動目標 (案)

次年度の活動目標 (案)

- 流域全体に関わる課題をテーマとして設定し、公開講座を実施する。
- 地域部会 (山・川・海) 合同でのバスツアーを企画・開催する。
- 農業従事者や大学関係者など、新たなつながりを広げる。

今後の市民部会の課題・役割

- 矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動
- 市民部会としての流域連携テーマの議論
- 地域部会の話題・課題を把握できるシステムの構築
- 10年間で新たに増えてきた課題や問題の明確化
- 懇談会とつながりの薄い農業や工業の団体との関係構築

市民部会で挙げられたテーマ

- ・「47災害から50年」
- ・「三河湾の水産資源」
- ・「上下水の市民科学」
- ・「栄養循環・物質循環」
- ・「農業と環境」
- ・「マイクロプラスチック第2弾」
- ・「ネオニコ第2弾」など

山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる

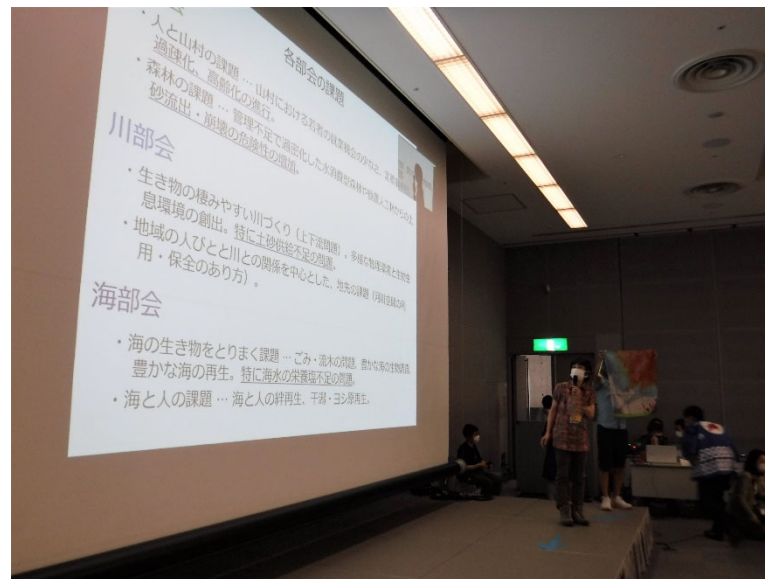
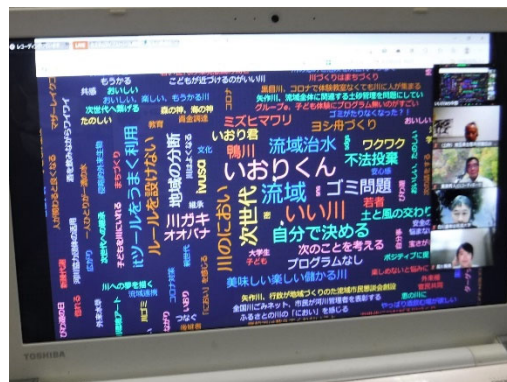
～今新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

矢作川の恵み・大切さを再認識し、より良い矢作川流域圏の再構築を目指し、平成30年度のWGで作成しました。

4. (3) 流域連携イベントに関する成果 | 令和3年度の活動成果

① 第13回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ

- 「矢作川流域圏懇談会 これまでの10年+これからの10年」と題し、矢作川流域圏懇談会の概要説明とこれまでの活動内容、各地域部会の課題や次の10年間の課題などについて、発表した。



② 第8回三河湾大感謝祭

- 根羽村森林組合による木製の弓矢のおもちゃを出展し、矢作川に関するクイズを出題した。また、約60名のクイズ参加者には「魚のペーパークラフト」をプレゼントした。



4. (3) 山部会の活動進捗報告

《令和3年度の当初目標》

「山部会の出発点の共有」を見直すとともに、これまでの4つのテーマについて、引き続き、情報共有と意見交換を行う。また、4つのテーマの中で、融合できる内容を精査し、必要に応じてテーマに絞り込んだ特別WGの開催を視野に議論を重ねる。

<テーマ>

①流域圏担い手づくり事例集

<解決手法>

- ・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ⅲ」を刊行する。
- ・特に山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目して取材を行う。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- ・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。

4. (3) 山部会の活動進捗報告

<テーマ>

②山村ミーティング

<解決手法>

- ・ガイドラインの作成においては、林業技術者に直接意見を伺うなど、懇談会との連携を強化する（担い手の創出）。
- ・矢作川感謝祭への森林組合員の参加が定着してきたため、このイベントをどのように活用するか、さらに検討を行っていく。

③森づくりガイドライン

- ・矢作川流域の森を守っているプロたちが、その仕事の意味や重要性を理解し、誇りをもって作業を行うための指針となり、同時に、矢作川流域の恵みで生きる河川管理者、沿岸漁業者、流域住民が、流域の森を守っているプロたちの作業の公益的な重要性を理解し、彼らをリスペクトし、応援するための指針となることを目的とした「森づくりガイドライン」づくりに取り組む。（②山村ミーティングとの協働を想定する）。
- ・森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- ・水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力又は水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。

4. (3) 山部会の活動進捗報告

<テーマ>

④木づかいガイドライン

<解決手法>

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている、木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した、木づかいが推進されるように「**木づかいガイドライン**」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「**矢作川流域ものさし・私の流域物語**」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって**全国の各流域においてその理念と製作方法を普及**する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった、全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある**矢作川流域圏懇談会の取り組みについて全国の流域関係者に向けて発信**する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブスギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる**市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施**する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって**身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革**していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、**地域住民や地域の子どもたち**が一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、**地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供**していく。

4. (3) 山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動スケジュール

今年度の活動としてWG3回、フィールドワーク4回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第59回WG（20名）	6月25日（金） 13：30～17：05	（根羽村） ・根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」
フィールドワーク①（12名）	6月26日（土） 9：30～12：00	（根羽村） ・コウヨウザン植栽箇所 ・根羽村森の交流館 ・村有林皆伐地 ・ネバーランドフォレストガーデン
第60回WG（32名）	10月1日（金） 13：30～17：00	（恵那市） ・恵那市消防防災センター 3階 研修室
フィールドワーク②（15名）	10月2日（土） 9：30～12：00	（恵那市） ・恵那市飯地町の太陽光発電施設（5箇所）
第61回WG（23名）	11月5日（金） 13：30～17：05	（豊田市） ・豊田森林組合庁舎 第2・3会議室
フィールドワーク③（16名）	11月6日（土） 9：30～12：00	（豊田市） ・鼎館 ・ゴンゾレトレイル
第13回山部会 まとめの会（25名）	1月22日（金） 13：30～16：30	（岡崎市） ・岡崎市額田センター「こもれびかん」（集会室A・B）
フィールドワーク④（13名）	1月22日（土） 9：30～12：00	（岡崎市） ・農林中金の補助金による整備地区「ぬかた木望の森」

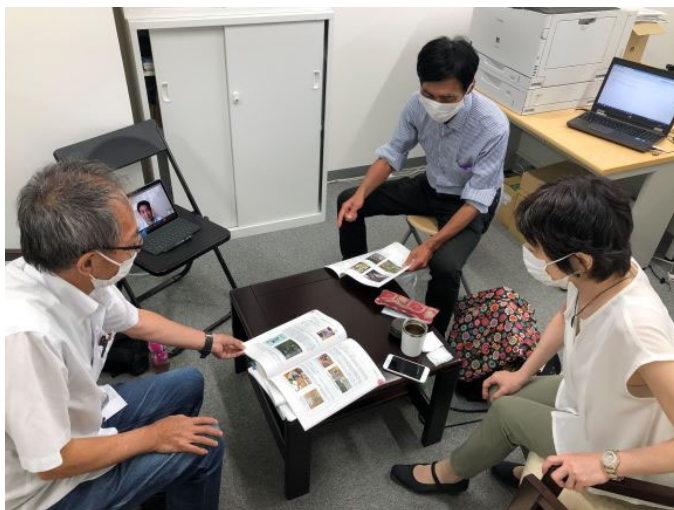
※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

4. (3) 山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

①流域圏担い手づくり事例集 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<流域圏担い手づくり事例集の作成>

- 山・川・海の有志からなる部会連携調整（通称：ミライ会議）を設け、その中で事例集の作成についても検討を行った。
- 前年度の10年誌作成過程で、流域の課題を解決するためには、もっと都市住民を巻き込むことが必要という認識が共有された。その先進事例を対象に、これまでと取材の形式を変え、取材対象のプロジェクトに関わる複数のメンバーに取材し、プロジェクトの全体像を立体的に浮かび上がらせることをめざした。
- 今年度は、名古屋の学童保育木質化プロジェクトを取材対象とし、部会連携調整（ミライ会議）時に「森と子ども未来会議」発起人の鈴木建一氏を招聘。その後、「あおぞら学童保育クラブ」、「松栄第一第二学童保育クラブ」「山里学童保育クラブ」（以上名古屋市）、「季の野の台所（知多郡美浜町）」を訪問。鈴木建一氏、学童保育の設計を行った「東海林建築設計事務所」の東海林修氏、「季の野の台所」の森川美保氏らに取材を行った。



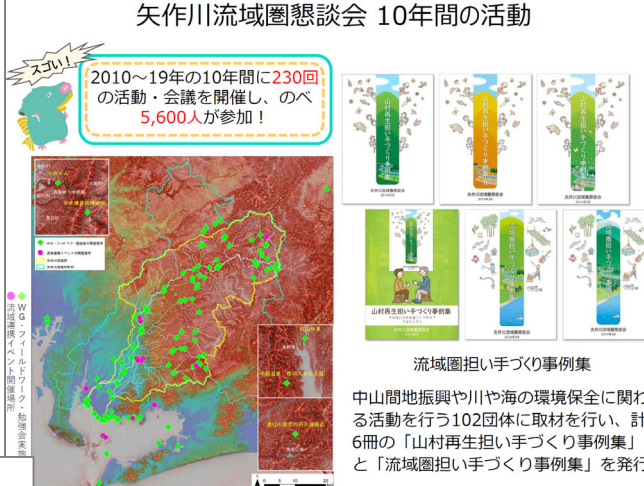
部会連携調整（ミライ会議）における取材計画検討状況（左）と事例集の取材風景（右）

4. (3) 山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果


① 流域圏担い手づくり事例集 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜川部会・海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動＞

- 「第13回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ in 中部」において、洲崎氏より懇談会の活動概要、流域圏担い手づくり事例集の作成状況、設立10年の成果と課題について、全国に向けて発信した。

各部会の課題	
<p>山部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と山村の課題 … 山村における若者の就業機会の少なさ、定着率の低さ、過疎化、高齢化の進行。 ・森林の課題 … 管理不足で過密化した水消費型森林や放置人工林からの土砂流出・崩壊の危険性の増加。 <p>川部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の棲みやすい川づくり（上下流問題）。多様な物理環境と生物生息環境の創出。特に土砂供給不足の問題。 ・地域の人びとと川との関係を中心とした、地先の課題（河川空間の利用・保全のあり方）。 <p>海部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の生き物をとりまく課題 … ごみ・流木の問題、豊かな海の生物調査、豊かな海の再生。特に海水の栄養塩不足の問題。 ・海と人の課題 … 海と人の絆再生、干潟・ヨシ原再生。 	<p>矢作川流域圏懇談会 10年間の活動</p> <p>2010～19年の10年間に230回の活動・会議を開催し、のべ5,600人が参加！</p>  <p>流域圏担い手づくり事例集</p> <p>中山間地振興や川や海的环境保全に関わる活動を行う102団体に取材を行い、計6冊の「山村再生担い手づくり事例集」と「流域圏担い手づくり事例集」を発行。</p>

矢作川流域圏懇談会 次の10年間の課題



矢作川流域圏懇談会10年誌 (表紙)

- ・2020年に懇談会が設立10周年を迎えるのを機に、10年誌を作成。
- ・成果だけでなく組織の再構築など運営する中で苦労した過程、会を支えたキーパーソンの声、事例集を振り返った座談会など、懇談会のリアルな軌跡を辿れる内容にした。

10年間で懇談会の活動は一定の成果を上げてきた。しかし、懇談会の継承につながる次世代のメンバーの参入がない。

今後、活動を若い世代につなげていくにはどうすればいいだろうか？

4. (3) 山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

②山村ミーティング | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<矢作川水源の山づくりガイドブックの策定>

- 森づくりガイドラインと協働で「矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議（通称：矢作川流域山づくりWS）」を岡崎と豊田で行い、林業の第一線で働く作業員の技術の伝承手法や労働環境の課題等について状況共有と意見交換を行った。過去に山村ミーティングで実施した林業担い手100ヒヤリングと並ぶ充実した会議となった。

現場力が机上の空論を喝破する
科学が日々の山仕事の不条理を解明する
力を合わせ現場を科学し「矢作川流域 山づくりガイドブック」をつくらう！

百戦錬磨の現場力と新進気鋭の科学で
これまで無意識に続けてきた森林作業や
どう見ても不合理的な指示や規則、
一見科学的でも違和感のある知見、
それらを今一度冷静に棚卸して
本当に筋に落ちる山づくりの手引きをつくらう！
持続可能な山仕事でこそ流域は持続可能になる。
心ある山づくりのプロたちよ、未来のために集まれ！



第1回矢作川流域山づくりWS
日時：令和3年7月26日(月)9～16時
場所：岡崎森林組合(座学と現場)

パンデミックや異常気象の中、山村部ではウッドショックや無秩序な不動産投機が懸念されています。2000年の東海(忠南)豪雨以来全国では豪雨災害が頻発していますが、矢作川ははっきり空白地域でいつ災害が発生しても不思議ではないと言われています。本物の山づくりが益々求められています。山仕事のプロである皆さまが、日々の山仕事で感じる疑問や不条理が、根拠となるべき科学的知見や制度が曖昧なまま、見過ごされています。それらの関係や課題を研究者と一緒に明らかにして、課題解決のために必要な技術と知見や制度を山づくりガイドブックにまとめたいと思います。技術を身につけ知見を学び制度を変えていくことから誇り高い山仕事と持続可能な森づくりができる仕組みを実現できたらと願っています。

- 7月26日(月) 9～16時：岡崎森林組合
- 6月14日に予定されていた第1回は緊急事態宣言延長により今回に延期しました。
- 内容 ①会議の趣旨と経緯説明(「矢作川流域林業担い手100人ヒヤリング」結果より)
- ②南九州の山で起きていることとこれからの矢作川の施策(東京大学：蔵治光一郎教授)
矢作川森の研究者グループの紹介
- ③地域の状況と作業上の課題(岡崎森林組合現場技術者から)
- ④(昼食)現地踏査(現場の自機と葛藤披露)
- ⑤フリートーク
- ⑥次回以降の進め方(課題、順番ほか)

*参加費無料：山林現場に入る格好でおいでください。
*コロナで愛知、岐阜、長野いずれかで緊急事態宣言発出期間内になった場合は延期します。
*当日37.5度以上の発熱のある場合は参加をお控えください。

会議の開催案内(チラシ)



会議・現地視察の様子(上段：岡崎市、下段：豊田市)

<矢作川感謝祭における流域の森林組合員の交流>

- 今年度は、流域の森林組合の参加が定着しつつあったこのイベントをどのように活用するかの検討を行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染の収束が望めないことから、イベント自体が中止となった。

4. (3) 山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

③ 森づくりガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<流域圏全体として調和のとれた森づくり>

- 流域市村において、森林環境譲与税の使い道に関する取り組みを、行政や森林組合の担当者より報告いただき、意見交換を行った。
- 根羽村では、根羽村森林組合を主体に伐採・製材加工・販売を通して、林業の一次、二次、三次産業による6次産業化を確立している。これを「根羽村トータル林業・まもる・つかう・つなぐ」と称して、林業のあるべき姿を追求していることを報告した。
- 豊田市の森林施策については、同市森林課の小川氏より「豊田市の森づくりの成果と課題について」をテーマに話題提供をいただいた。森林組合と連携し、団地化推進プロジェクトによる間伐の推進、森林整備に関する人材育成や普及啓発、木材利用を進めていることを報告した。
- 岡崎市の森林施策については、同市森林課の今泉氏より「岡崎市の森林環境譲与税を使った森林施策について」をテーマに話題提供をいただいた。同市は、令和2年度の活用実績として所有者から委託された森林について一部を民間事業体に再委託することや、人工林間伐養成講座をはじめとする4講座を開催したことを報告した。

<矢作川水系流域治水プロジェクト>

- 国土交通省が推進している「矢作川水系流域治水プロジェクト」について、事務局より紹介された。本プロジェクトは、事業を「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」「被害対象を減少させるための対策」「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」の3つの対策に分け、国・県・市町が一体となって流域治水を推進することとしている。



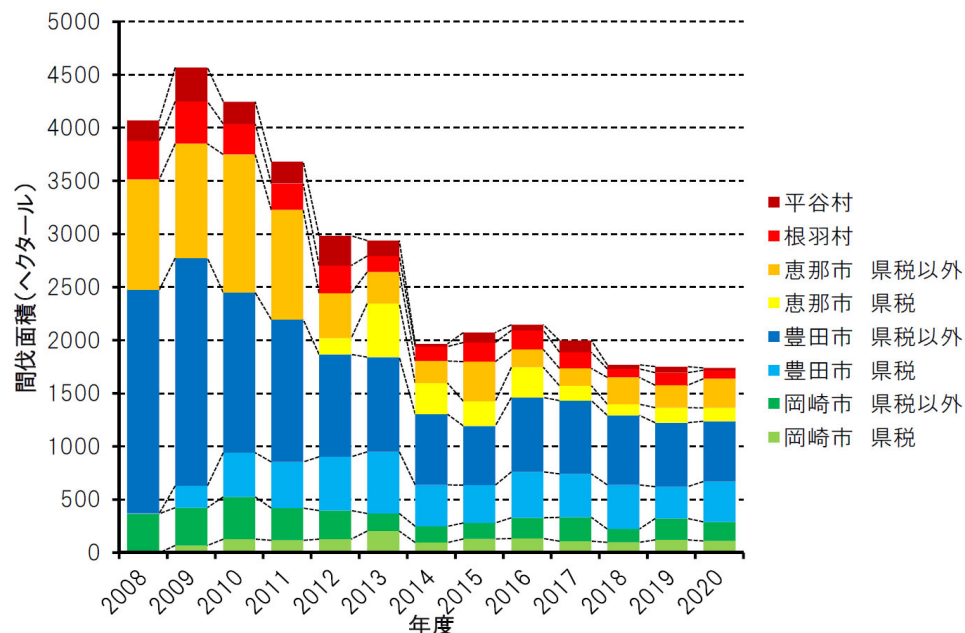
流域の自治体の森林施策の状況報告（豊田市の例）

4. (3) 山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

③ 森づくりガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<流域市村の間伐面積の経年変化>

- 2009年をピークに、流域の市村の間伐面積は減少し、2018年以降横ばいとなっている。2020年の流域の間伐の状況は、以下となっていた。
 - ① 根羽村では、材価高騰のため、皆伐が増加している。
 - ② 恵那市では、搬出間伐がメインであるが、補助金額が減少している。
 - ③ 豊田市では、コロナの影響で材価が下がったため、切置き間伐に移行したが、現在は材価高騰のため、皆伐が増加している。
 - ④ 岡崎市では、コロナ対策に予算を割かれたり、水源基金も作業道造成に比重が置かれたため、間伐面積の減少につながった。



2008年以降の流域市村の間伐面積の推移

4. (3) 山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<「木づかいガイドライン」の作成>

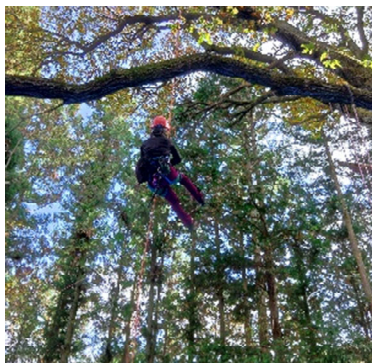
- 早生樹であるコウヨウザンの試験植栽に関する情報共有を行った。コウヨウザンは、早生樹で、1500本/haで植え付け、獣害対策をしながら森林資源の早期育成を図るものである。スギ・ヒノキの植栽密度が3000本/haであるため、間伐経費を抑えた低コスト施業につなげる。植栽当初（R2.12月）は活着率がほぼ100%で順調であったが、この冬にシカの食害を受けて、ほぼ全滅状態となっている。これをうけ、シカが嫌うカプサイシン(辛子)溶液を導入することで、再度コウヨウザンの植栽を検討している。



根羽村のコウヨウザンの植栽地遠景と苗

<木づかいと森林アクティブ系・癒し系プログラムによる市民創造型プロジェクトの実施>

- 山梨県の南都留森林組合では、森の学校の開催、様々な森づくりワークショッププログラムの開発、森の幼稚園との連携等、様々な木育活動を行っている。以前実施した当流域圏懇談会と神奈川県山北町との流域連携の結果として、現在、両組合が連携して、森林アクティブ系、癒し系プログラムを南都留森林組合が、木のアイテムを活用したプレイスメイキングを根羽村森林組合が担当することで、それぞれの両組合の強みを活かした魅力的な里山活動を行うこととなった。



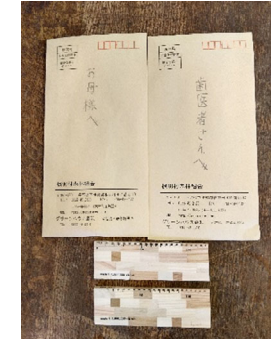
◀山梨県の南都留森林組合との連携
森林アクティブ系と木のアイテム系の
プログラム交換

4. (3) 山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の製作とその理念と製作方法を普及>

- 根羽学園では、4年生の子ども達に「矢作川流域ものさし」を製作してもらい、併せて「私の流域物語」を作文してもらった。「矢作川流域ものさし」は誰にでも楽しく作れて、木の自然素材カラーが美しいことから子ども達にも好評であった。また、続けて作文してもらった「私の流域物語」も、ものさしに絡めて様々な思いが語られており、やはり、「流域ものさしと流域物語」の他者へのプレゼントは、子どもも大人にとっても大変魅力的で印象的な試みとなった。



流域ものさしの製作と私の流域物語のお手紙

<「森の民のこどもたち（NPO法人 矢作川源流の森ねば）の作成>

- 「木を育てる」「木で作る」「木とくらす」「木と共に生きる」をテーマとしたパンフレットを製作したことで、森の育成から木材の生産、暮らしの中での木の活用などが周知された。また、木を育てて、伐採しそれを製材機にかけて建築部材を生産し、家づくりまで結びつけている木づかいの流れが簡単に理解されるように努めた。
- 「森の幼稚園」という活動が世界で広がっており、日本でも同様の取組みが進められている。森の幼稚園的な活動により、田舎への移住者が増え、定住促進につながっているところがある。矢作川流域独自の森の幼稚園の構想を推進することで、将来の森の担い手づくりに結び付く可能性があることを共有した。



子ども達への木づかい推進（左：伊那市 高遠第二・第三保育園、右：根羽学園）



パンフレット「森の民のこどもたち」の抜粋

4. (3) 山部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<改正公共建築物等木材利用促進法について>

- 木材の利用を促進する対象として、公共建築物から民間建築物を含めた建築物一般に拡大する法律の改正を周知した。参考事例として、木材を積極的に活用することにより山村の活性化に貢献していくことが明記されており、矢作川流域での活用が大いに期待できると考えられる。
- こうした法制度の改正の周知により、今後、学童施設や里山に矢作川流域材を活用した活動拠点施設及びトイレ等を設置して、里山等における木育活動の推進を図ることを周知した。



名古屋市内の児童施設 愛知県産材のスギ材による板倉構法の拠点施設

4. (3) 山部会の次年度の活動目標（案）

来年度の活動目標（案）

次の10年を見据えながら、山部会の在り方を模索するとともに、4つの活動テーマを軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。

テーマ別の活動目標（案）

①流域圏担い手づくり事例集

- ・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ⅳ」を刊行する。
- ・特に山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目して取材を行う。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- ・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。

4. (3) 山部会の次年度の活動目標 (案)

②山村ミーティング

- ・山村ミーティングの実現のためには、林業技術者に直接意見を伺うなど、懇談会との連携を強化する (担い手の創出)。
- ・一昨年までの矢作川感謝祭では、流域の森林組合員の参加が定着傾向にあった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、今年度はイベント自体が中止となった。今後は、このイベントが林業関係者の交流の場として、どのような役割を果たすのか、開催を支援しながら再検討を行っていく。

③森づくりガイドライン

- ・森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- ・水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。

②山村ミーティングと③森づくりガイドラインの協働

- ・矢作川流域の森を守っているプロたちが、その仕事の意味や重要性を理解し、誇りをもって作業を行うための指針となり、同時に、矢作川流域の恵みで生きる河川管理者、沿岸漁業者、流域住民が、流域の森を守っているプロたちの作業の公益的な重要性を理解し、彼らをリスペクトし、応援するための指針となることを目的とした「矢作川流域 山づくりガイドブック」の作成に取り組む。

4. (3) 山部会の次年度の活動目標 (案)

④木づかいガイドライン

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって、全国の各流域において、その理念と製作方法を普及する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって、身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子どもたちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供していく。
- ・神奈川県山北町において開催された「大人の木育」の講師を務めた流域連携から、現在南都留森林組合との連携事業がスタートした。今後、道志村のキャンプ施設を対象とした森林づくりワーク及び木のアイテムによるプレイスメイキングを進めていく。
- ・学童保育、森の幼稚園、里山等で森づくりワークを進めていくにあたり、それらの活動拠点施設及びトイレが必要である。愛知県の学童施設に愛知県産材のスギ材が「板倉構法」として使われており、こうした事例を参考に矢作川流域材を活動拠点及びトイレ等の施設に活用していく。

4. (3) 川部会の活動進捗報告

《令和3年度の当初目標》

これまでのテーマについて、引き続き情報共有と意見交換を行う。

＜テーマ＞

上下流問題
(生き物の棲みやすい
川づくり)

地先の問題

＜解決手法＞

①本川モデル

- ・土砂や川の形、生物の視点からの川の望ましい像に関する意見交換
- ・置土実験に関する情報共有
- ・川部会が抱える課題の他部会への発信(バスツアーなどにおいて)

②支川モデル

- ・水系の河川情報の集積(生物・防災・管理者の境界)
- ・川沿いウォークの実施(町中・山中の川沿いを歩くことも含める)

③地域連携モデル

- ・ごみ問題に関する情報共有
- ・外部団体(生態系ネットワーク協議会等)との連携

4. (3) 川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動スケジュール

川部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第56回WG（18名）	6月22日（火） 13:30-16:45	豊田市崇化館交流館 4階 第2会議室
第57回WG（22名）	8月17日（火） 13:30-17:05	鵜の首地区（野見山展望台、水源橋） 豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室
第58回WG（31名）	11月19日（金） 9:00-17:40	置土実験箇所（時瀬地区・越戸ダム下流） 初音川ビオトープ 豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室
第13回川部会 まとめの会（23名）	1月14日（金） 14:00～16:00	豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室

※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

4. (3) 川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜土砂や川の形、生物の視点からの川の望ましい像に関する意見交換＞

- 事務局より、置土実験の概要や、鵜の首地区水位低下対策事業の推進と事業効果について、情報共有を行った。同時に、土砂の流れによる河床形態の仕組みと、矢作川下流域に形成される砂州の状況について、土砂水理学を専門とする溝口教授よりご講義をいただき、理解を深めた。また、これらの理解をさらに深めるため、現地視察を実施し、川の望ましい像に関する意見交換を行った。



講義の風景



鵜の首地区での現地視察



時瀬置土実験地における現地視察



越戸ダム下流置土実験地における現地視察

4. (3) 川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

①本川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<事業概要等に関する情報共有>

- 国土交通省が推進する「矢作川流域治水プロジェクト」について、情報共有と意見交換を行った。

<川部会が抱える課題の他部会への発信(バスツアーなどにおいて)>

- バスツアーに関して、計画時との時間的経過を考慮し、最新の情報に基づいて議論を行った。



矢作川流域治水プロジェクトの説明風景

2日目 令和3年11月26日(金)

時刻	場所	詳細	担当部会
8:45集合	豊田市駅		
9:00出発			
	↓	移動(20分) 鶉の首地区水位低下対策箇所の見学を追加	
9:20到着	明治用水頭首工 (豊田市室町)	明治用水頭首工における治水・利水の問題について(30分) 解説: 落河崇征様 (豊田市河川課 副課長)	川部会
9:50出発			
	↓	移動(10分)	
10:00到着	安永川トンネル (豊田市今町)	安永川トンネルに関する治水の問題や魚の移動経路(30分) 解説: 落河崇征様 (豊田市河川課 副課長)	川部会
10:30出発			
	↓	移動(10分)	
10:40到着	家下川 (豊田市樹塚東町)	家下川でのこれまでの取り組みについて(45分) 解説者: 酒井博嗣様 (豊田市文化財課)	川部会
11:25出発			

バスツアーのスケジュールの再検討結果

4. (3) 川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

②支川モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<水系の河川情報の集積(生物・防災・管理者の境界)>

- 逢妻男川の支流の初音川において、ビオトープ施工箇所^①の現地視察を行い、造成の経緯、愛護会の活動、整備の状況について豊田市矢作川研究所金田氏、洲崎氏よりご紹介いただいた。また、現地で確認された生物に関して、参加者より説明と意見交換が行われた。



初音川ビオトープ現地視察風景（左：生物の確認風景、右：物理性（魚道）の確認風景）

4. (3) 川部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

③地域連携モデル | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<ごみ問題に関する情報共有>

- マイクロプラスチックに関する公開講座の開催において、川部会関係者が懇談会内外への発信を行った。また、公開講座に参加し、ディスカッションを積極的に行った。

<外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携>

- 部会員より西三河南部生態系ネットワークとの交流に関する紹介を受けた。次年度は、西三河生態系ネットワーク等、その他の生態系ネットワークとのつながりを模索する予定である。



公開講座のディスカッションの様子



外部団体との連携手法に関する意見交換

4. (3) 川部会の次年度の活動目標（案）

次年度の活動目標（案）

- 土砂をキーワードに他部会を巻き込んだ情報共有と意見交換を行うとともに、昨今頻発する自然災害や環境の悪化に注目し、矢作川の望ましい姿を検討する。

テーマ別の活動方針（例）

①本川モデル

- 流域における土砂の役割を再認識するとともに、山・川・海の立場に共通する望ましい条件を抽出し、関係する国や自治体に、その条件を共有する
- 鵜の首地区水位低下対策事業（砂の掘削）、干潟造成箇所（掘削で生じた砂の造成）について、海部会と合同で状況を把握し、双方の利益に関する意見交換を行う。また、より好ましい事業に向けて、関係者への働きかけを行う

②支川モデル

- 支川で活動する団体を訪問し、流域における支川の役割をとりまとめる（川部会の記録として残す）

③地域連携モデル

- ごみ問題に関する情報共有を行う
- 外部団体（生態系ネットワーク協議会等）と連携する

4. (3) 海部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動スケジュール

《令和3年度の当初目標》

今までの取り組みをふりかえりながら、アサリの問題、マイクロプラスチックの問題、土砂の問題に対して、情報共有と意見交換を行う。

<テーマ>

<解決手法>

ごみの問題

- ごみの質も以前とは変化してきている。特にマイクロプラスチックの問題は、拾って処分できるものではないため、最新の情報を共有する。

豊かな海の再生に
向けた取り組み

- アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識の周知を行う。

海と人の絆再生

- 海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす。
- 外部への発信を行う。

土砂の問題

- 土砂移動に関する情報共有を行う。

4. (3) 海部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動スケジュール

海部会の活動として、WGを3回、まとめの会を1回開催した。

活動（参加者数）	日時	場所
第46回WG（23名）	6月14日（月） 13:00-16:00	・西尾市役所会議棟 2階 第4会議室
第47回WG（23名）	8月4日（水） 13:30-17:20	・東幡豆海岸および東幡豆漁協事務所
第48回WG（27名）	10月12日（火） 14:00-16:30	・西尾市役所本庁舎 5階 53ABC会議室
第11回海部会 まとめの会（16名）	12月14日（火） 14:00-16:00	・西尾市役所会議棟 2階 第4会議室

※参加人数はオンライン参加者、事務局含む

4. (3) 海部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

ごみの問題 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<ごみの問題に関する情報共有と現地視察>

- マイクロプラスチックに関する公開講座に参加し、最新の情報を共有した。
- 西尾市東幡豆海岸を訪れ、漂着ごみの観察やごみ問題の啓発について、現地視察および意見交換を行った。



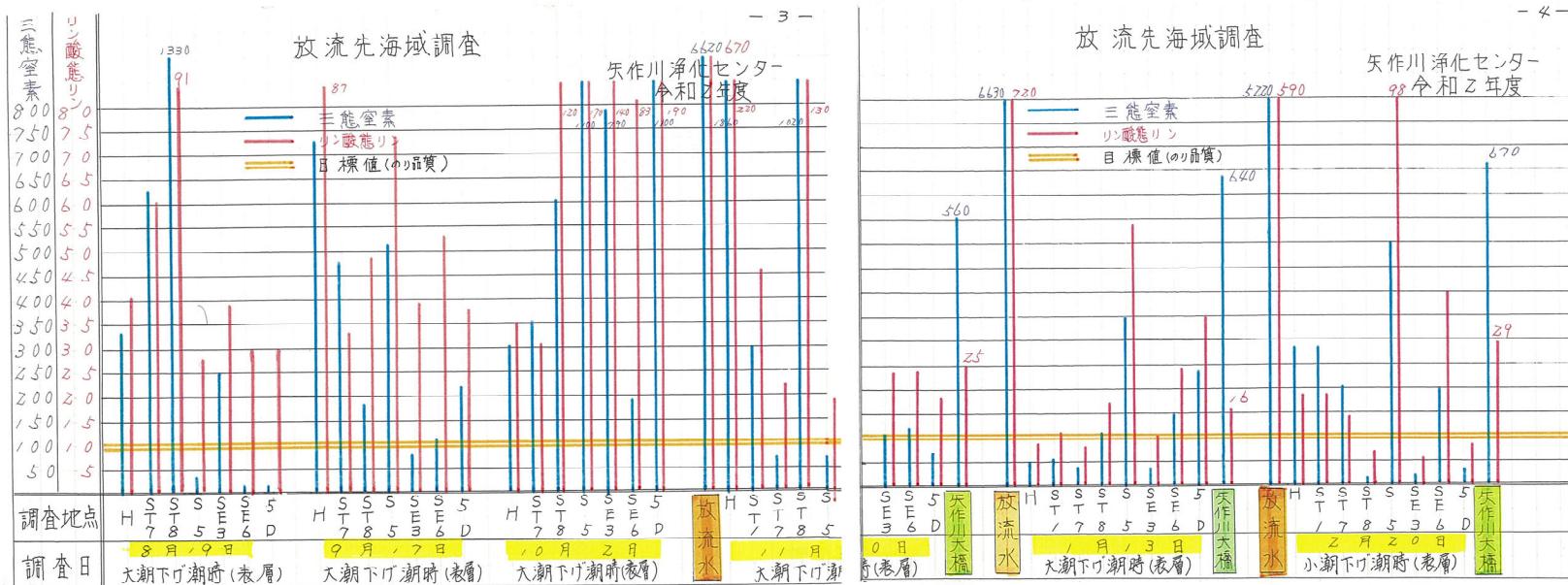
東幡豆海岸現地視察のようす

4. (3) 海部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

豊かな海の再生に向けた取り組み | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海＝豊かな海」ではないという認識の周知を行う。＞

- 吉田漁業協同組合の石川甚右衛門氏より、矢作川浄化センター放流口～放流先海域における窒素・リンなどの計測結果と、アサリ・ノリの現状について、ご説明いただいた。
- 西尾市東幡豆海岸にて、干潟に生息する生き物（節足動物・海藻類・鳥類等）を観察し、三河湾の生物資源の現状について、意見交換を行った。



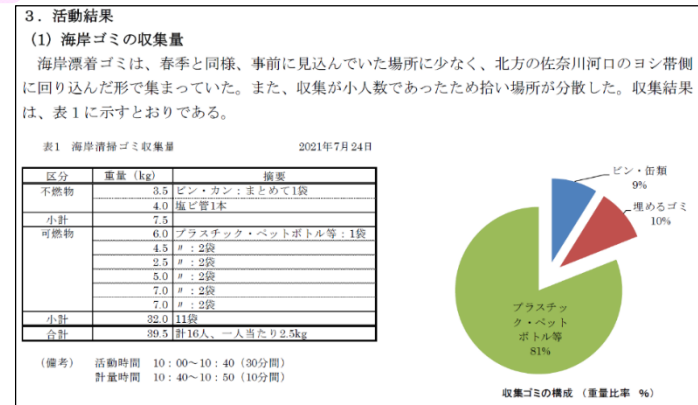
吉田漁業協同組合の石川甚右衛門氏より、情報提供いただいた資料（一部抜粋）

4. (3) 海部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

海と人の絆 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす>

- 矢作川環境技術研究会の野田氏より、「一色干潟観察会」や「海岸・清掃と生き物調べ学習会」などの海に関わる活動内容について、ご説明いただいた。



野田氏 (矢作川環境技術研究会) による話題提供
(資料一部抜粋)

<外部への発信を行う>

- 日本陸水学会第85回東京大会での発表を通し、外部への発信を行った。
- 矢作川水系流域治水プロジェクトの概要について、情報共有を行った。

令和3年9月22日 日本陸水学会第85回東京大会

課題: 栄養塩負荷量と漁業生産の関係: 水質総量規制は漁業生産の減少要因か?

矢作川流域圏懇談会 海部会
吉田漁協の資料紹介

井上祥一郎/石川甚右衛門
矢作川流域圏懇談会 海部会会員
名邦テクノ・エステム・日吉/愛知県吉田漁業協同組合

井上氏 (伊勢・三河湾流域ネットワーク) による話題提供 (資料一部抜粋)

矢作川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】
～日本の産業を支える「ものづくり拠点」を水害から守る流域治水対策～

●矢作川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
【短 期】
- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、中流部の堤防整備、河道掘削を中心に進め、中流部での浸水深・浸水面積の減少を図る。
- 被害対象を減少させるための対策として、立地適正化計画における防災対策の検討等を推進する。
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策として、排水作業準備計画の検証と避難確保計画の作成促進、住居の水害リスクに対する避難促進の取組等を推進する。
【中 期】
- 引き続き、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、中上流部の堤防整備、河道掘削、樹木伐採を進めることで、中下流部での浸水被害の解消を図る。上流部でも川の首端区河道掘削を完了させ、浸水深・浸水面積の減少を図る。
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策として、防災拠点等の整備の進捗、水害リスク低減の促進を進める。
【中長期】
- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、矢作ダム再生事業を完了させ、流域全体での浸水被害軽減を図る。
- 被害対象を減少させるための対策、減速、早期復旧・復興のための対策についても引き続き実施し、流域全体の安全性向上を図る。

【ロードマップ】

区分	対策内容	実施主体	工程	工程	工程
中流部	堤防整備	国・県・市町	計画	実施	完了
	河道掘削	国・県・市町	計画	実施	完了
	立地適正化	国・県・市町	計画	実施	完了
	避難確保	国・県・市町	計画	実施	完了
中下流部	堤防整備	国・県・市町	計画	実施	完了
	河道掘削	国・県・市町	計画	実施	完了
	立地適正化	国・県・市町	計画	実施	完了
	避難確保	国・県・市町	計画	実施	完了
上流部	堤防整備	国・県・市町	計画	実施	完了
	河道掘削	国・県・市町	計画	実施	完了
	立地適正化	国・県・市町	計画	実施	完了
	避難確保	国・県・市町	計画	実施	完了

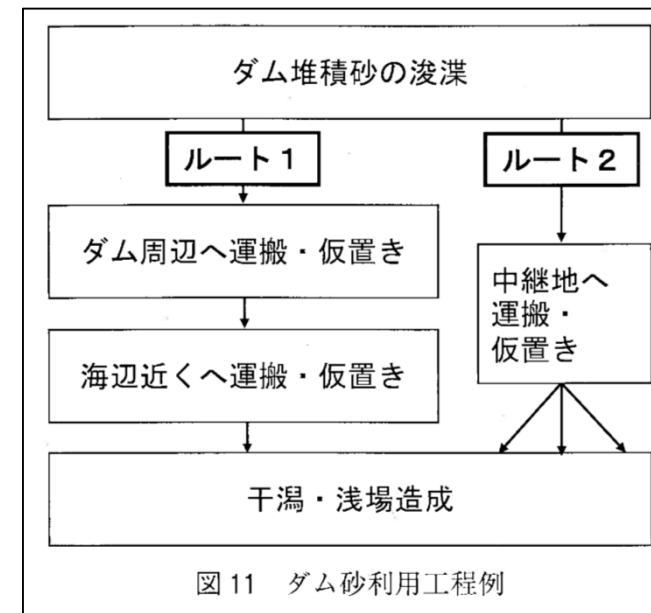
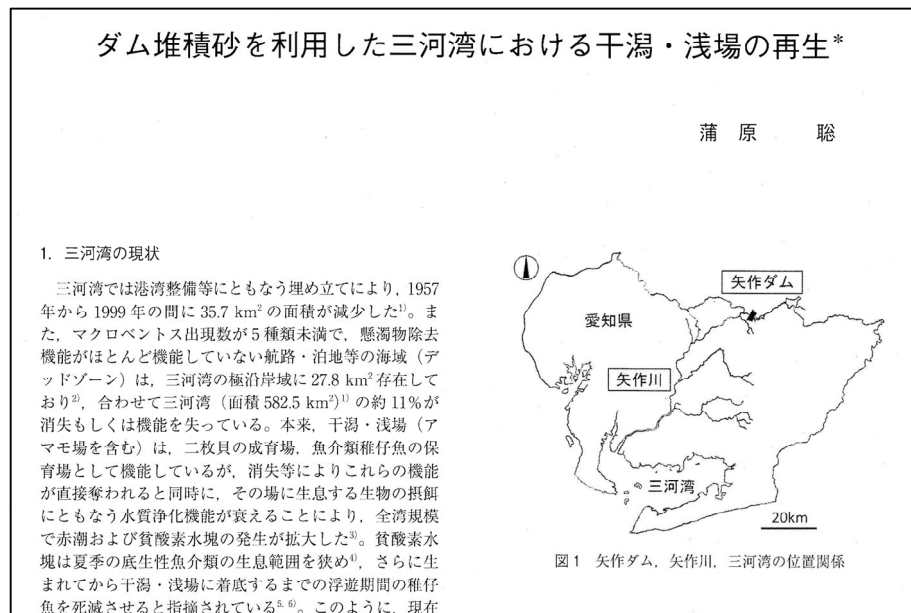
矢作川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】 (一部抜粋)

4. (3) 海部会の活動進捗報告 | 令和3年度の活動成果

土砂の問題 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<土砂移動に関する情報共有を行う>

- 時瀬地区における置土実験の概要について、情報共有を行った。
- 「ダム堆積砂を利用した三河湾における干潟・浅場の再生」について情報共有を行い、三河湾干潟・浅場の現状、愛知県の取組等について、意見交換を行った。



青山氏（愛知県水産試験場）による話題提供（資料一部抜粋）

4. (3) 海部会の次年度の活動目標 (案)

次年度の活動目標 (案)

- 4つのテーマに対して情報共有と意見交換を行うだけでなく、情報を発信する。また、それぞれのテーマについて、相互に作用し合っていることを意識しながら、課題の解決手法について検討する。

テーマ別の活動目標 (案)

■ごみの問題

- ごみの問題は、三河湾だけではなく伊勢湾全体の課題であるため、より広い範囲での情報共有と発信を行うとともに、ごみ問題に関わる活動との連携をはかる。

■豊かな海の再生に向けた取り組み

- 引き続き、アサリやリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 「きれいな海 = 豊かな海」ではないという認識を、山・川・海共通の課題として周知する。
- 豊川などの自然再生に関わる活動について、情報を共有する。

■海と人との絆再生

- 海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす。
- アートやダイバーシティなど、新しい視点を体験・見学し、各種課題の糸口を模索する。

■土砂の問題

- 河川の治水事業や干潟造成事業など土砂に関わる具体的な事業を通して土砂問題の認識を深めるとともに、他部会との情報共有および意見交換を行う。

4. (4) 河川整備計画フォローアップ等について

実施項目

- ① 河川整備計画の概要 (参考資料 参照)
- ② 過去の主要な洪水 (参考資料 参照)
- ③ 河川整備計画に対する
流域委員会との係わり (参考資料 参照)
- ④ 治水 (洪水、高潮等による災害の発生
の防止または軽減に関する事項)
情報共有、調整・連携等
- ⑤ 利水 (河川水の適正な利用及び流水
の正常な機能の維持に関する事項)
情報共有等
- ⑥ 環境 (河川環境の整備と保全に関する事項)
調整・連携等
- ⑦ 土砂管理 (総合的な土砂管理に関する事項)
情報共有等

情報共有

- ④ 治水 (水防災意識社会の再構築)
(矢作川水系流域治水プロジェクト〔補足〕)
(参考資料 参照)

矢作川河川整備計画パンフレットより

調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けた取り組み

流域圏 流域圏一体化の取り組みに関する事項

流域圏住民・関係者の連携強化

- 河川管理者が中心となり矢作川流域圏に関する各組織のネットワーク化を図り連携を強化していきます。
- 流域圏住民と関係者間の交流を深めるため、流域圏内で各組織や団体が取り組んでいる川づくり、森づくり等の活動に関する情報発信を支援し、住民参加を促進させます。
- 各組織や団体が実施している森林保全、水質保全、三河湾再生に向けた取り組み等について、今後のさらなる充実に向け行政、住民、学識者等が情報共有、意見交換を実施し、さらに課題を解決するための場として新たな枠組み(流域圏懇談会(仮称))を検討していきます。

流域圏住民の啓発活動

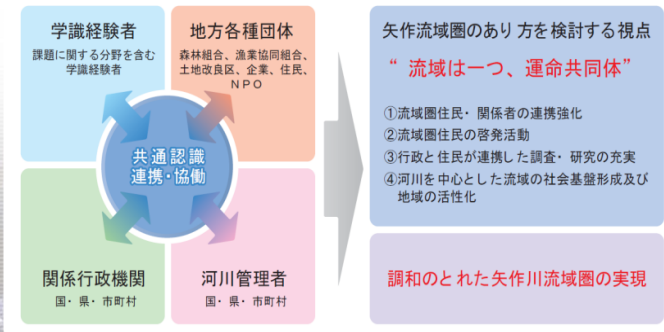
- 矢作川流域圏に関わる者の“流域は一つ、運命共同体”という意識を醸成するため、行政及び住民が流域圏におけるそれぞれの役割を認識するための啓発活動に協力します。
- 住民の防災意識向上のため、過去の災害の経験、知識を活用し、県・市町村と連携した防災学習や防災訓練等を実施するとともに洪水・土砂災害ハザードマップの作成・公表の支援を行います。
- 企業、住民・NPO団体が実施している河川清掃等の河川愛護活動については参加促進などの支援を行い、流域圏住民の河川愛護意識の高揚を目指します。

行政と住民が連携した調査・研究の充実

- 行政・住民等が連携して定期的な環境調査や水質監視、土砂動態調査を実施し、流域の河川や森林等の現状や変化等を把握します。
- 調査で得られた情報や知見及び各機関や組織で実施された研究成果について情報の共有及び情報発信できる仕組みの構築を検討します。

河川を中心とした社会基盤形成及び地域の活性化

- 流域圏における水源地の重要性を認識し、上矢作ダムに係わる経緯を踏まえ、森林保全基金等既存組織の活用を含め、農山村の活性化に資するよう関係機関と連絡調整を図り、水源地における必要な社会資本整備を推進します。
- 流域の豊かな自然環境・風土・歴史・文化等を踏まえ、本来河川空間が有している人々のふれあい・安らぎの空間、市街地周辺における豊かな自然環境を有する空間の創出を目指し、「かわまちづくり」に資する整備を図れるよう調整・連携を行います。



4. (4) ④ 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

■ 早期の治水効果発現を目指す取り組み

- 矢作川では、平成12年9月東海(恵南)豪雨規模の洪水を安全に流下させるため、鶴の首上流の豊田市区間の河道掘削、中下流部の堤防整備・堤防強化、河道掘削、樹木伐開を重点的に進めてきました。
- 令和2年度末現在、河川整備計画で計上された事業の進捗率は、事業費ベースで約47%となっています。

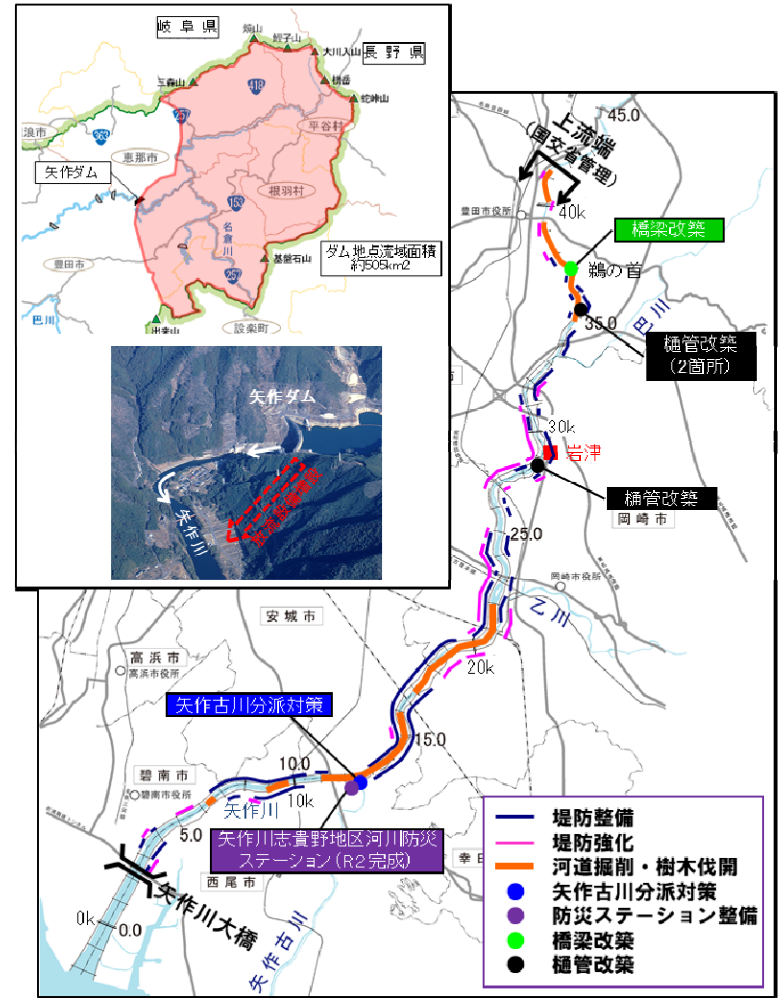
事業の進捗状況(矢作川)

- 引き続き、中流部・上流部における堤防整備・堤防強化、河道掘削・樹木伐開を進めていきます。
- 同時に、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づき、早期に流下能力を向上すべき箇所への河道改修を進めていきます。
- 矢作ダムでは、矢作ダム再生事業にて、放流能力増強のため、増設放流設備について検討を進めています。

矢作川水系河川整備計画に対する主な事業の進捗状況

整備項目	事業全体	R2年度末完成
堤防整備・堤防強化 ^{※1}	48 km	19 km
河道掘削	270 万m ³	55 万m ³
樹木伐開	27 万m ²	23 万m ²
矢作古川分派対策	1 箇所	1 箇所
橋梁改築	1 箇所	—
樋管改築	3 箇所	—
危機管理型ハード対策 ^{※2}	8 km	6 km
矢作川志貴野地区河川防災ステーション	1 箇所	1 箇所
矢作ダム再生事業	1 式	—

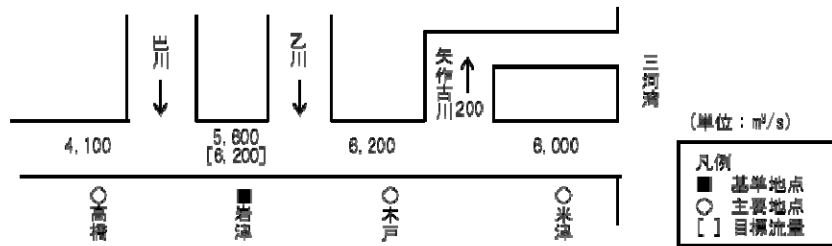
※1: 堤防強化には浸透対策、護岸整備を含む
 ※2: 平成27年9月の関東・東北豪雨災害を踏まえ、新たに「水防対策株式会社等連携ビジョン」に基づくハード対策の一環として、雨量が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、令和2年度末までに実施済み。



河川整備計画に基づく整備位置図

河川整備計画において目標とする流量と河道整備流量

河川名	基準地点名	河川整備計画目標流量	洪水調節施設による洪水調節量(矢作ダム)	河道整備流量	備考
矢作川	岩津	6,200m ³ /s	600m ³ /s	5,600m ³ /s	平成12年9月洪水対応



流域圏懇談会との関わり: [整備計画 第3章 河川の整備の実施に関する事項]

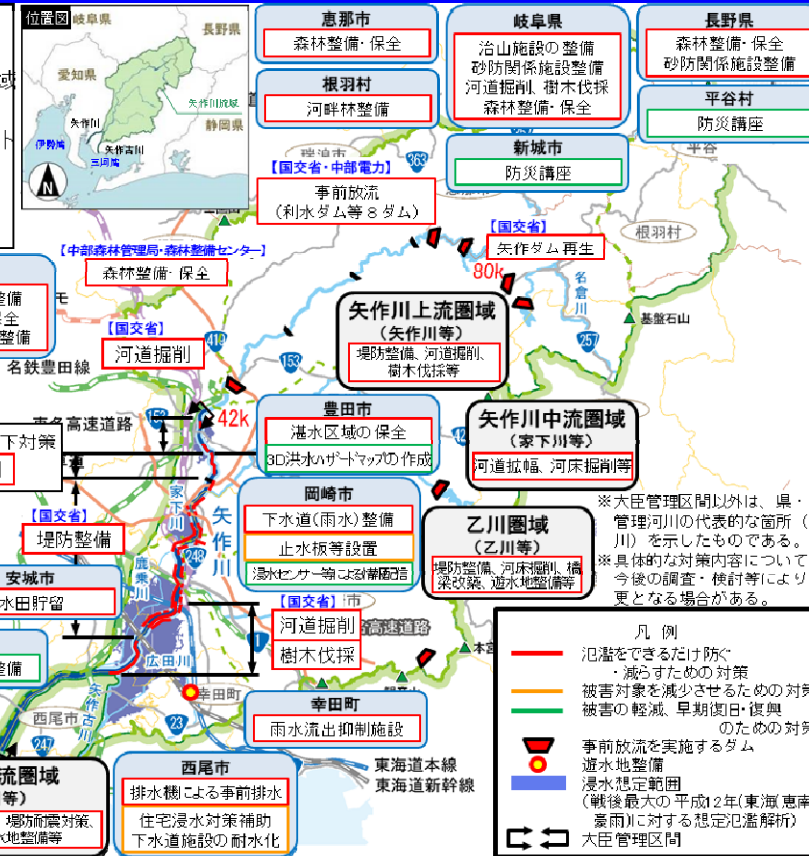
… 地域住民や関係機関との情報の共有を図りつつ、河川整備を実施する。

4. (4) ④ 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

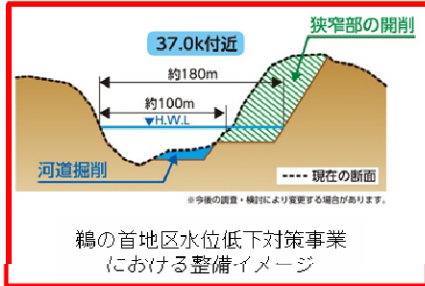
矢作川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～日本の産業を支える「ものづくり拠点」を水害から守る流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、矢作川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 日本の産業を支える「ものづくり拠点」であるが、狭窄部や台地・山地に挟まれた地域に都市機能が産業が集積し、水害リスクが高い流域であることから、河道掘削等の河道改修や被害対象を減少させるための対策、広域防災ネットワーク構築等のソフト対策を合わせて実施し、浸水被害の軽減・早期復旧を図る。
- これらの取組により、国管理区間においては、戦後最大の平成12年9月洪水(東海(恵南)豪雨)と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - ・堤防整備、河道掘削、樹木伐採、橋梁改築、遊水地整備等
 - ・矢作ダム再生
 - ・流出抑制対策 (利水ダム等8ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、愛知県、中部電力(株)など)、雨水流出抑制施設による貯留・浸透機能の拡充、下水道(雨水)整備、水田貯留、湛水区域の保全、森林整備・保全、治山施設の整備、砂防関係施設整備、河畔林整備等)
- 被害対象を減少させるための対策
 - ・頻発・激甚化する自然災害に対応した「安全なまちづくり」に向けた取組 (防災・減災のための住まい方や土地利用、土地利用規制・誘導、住宅浸水対策補助等)
 - ・浸水ハザードエリア等における浸水対策 (止水板等設置工事費用補助、下水道施設の耐水化等)
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 - ・早期復旧に備えた対策 (防災拠点等の整備、広域防災ネットワークの構築、排水作業準備計画の検証)
 - ・被害軽減対策 (要配慮者施設避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保、企業へのBCP作成セミナーの開催)
 - ・住民の主体的な避難行動を促す取り組み (「みずから守るプログラム」の普及促進、防災講座、防災訓練、洪水プッシュ型情報配信、水害リスクライン配信、ハザードマップの周知、3D洪水ハザードマップの作成、住民の水害リスクに対する理解促進の取組、浸水センサー等による情報配信等)
 - ・ソフト対策のための整備 (水害リスクの高い区間の監視体制の整備、水害リスク空白域の解消、土砂災害リスク情報の現地表示、土砂災害警戒区域等の指定・周知等)



流域圏懇談会との関わり： 第59回山部会、第56回川部会、第47回海部会において、情報共有し、意見交換しました。

4. (4) ④ 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

矢作川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～日本の産業を支える「ものづくり拠点」を水害から守る流域治水対策～

● 矢作川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】

- ・氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、中流部の堤防整備、河道掘削を中心に進め、中流部での浸水深・浸水面積の減少を図る。
- ・被害対象を減少させるための対策として、立地適正化計画における防災指針の検討等を推進する。
- ・被害の軽減、早期復旧・復興のための対策として、排水作業準備計画の検証や避難確保計画の作成促進、住民の水害リスクに対する理解促進の取組等を推進する。

【中期】

- ・引き続き、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、中上流部の堤防整備、河道掘削、樹木伐採を進めることで、中下流部での浸水被害の解消を図る。上流部でも鶴の首地区河道掘削を完了させ、浸水深・浸水面積の減少の減少を図る。
- ・被害の軽減、早期復旧・復興のための対策として、防災拠点等の整備の他、水害リスク空白域の解消を進める。

【中長期】

- ・氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、矢作ダム再生事業を完了させ、流域全体での浸水被害解消を図る。
- ・被害対象を減少させるための対策、被害の軽減、早期復旧・復興のための対策についても引き続き実施し、流域全体の安全度向上を図る。

【ロードマップ】

※スケジュールは、今後の事業進捗によって変更となる場合があります。 ※各対策による放上げでは、代表的な市町名を記載しています。
※色別：対策の進捗に合わせた調整・表示

区分	対策内容	実施主体	工期		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備	豊橋河川事務所 豊川市	中流部堤防整備		
	河道掘削・橋梁改築	豊橋河川事務所 豊川市、豊田県	中流部河道掘削		
	堤防改修	豊川市、豊田県	鶴の首地区河道掘削完了		
	浸水地整備	豊川市、豊田県	鶴の首橋等改築着手(豊田市)		
	矢作ダム再生	豊橋河川事務所	広田川葦池遊水地、乙川遊水地等整備着手(愛知県)		
	河川ダム等のダムにおける等圧貯水等の実施、 低圧貯水	豊橋河川事務所、豊川市、 豊田県、豊田県	矢作ダム再生事業建設着手		
	下水道(雨水)等管、水田貯留事業、浸水区域の 保全	豊田県、岡崎市	事前放流等の実施		
	森林整備、保全、除山整備の整備、河川整備、 砂防施設整備	豊田県、岡崎市、 豊川市、豊田県、 豊田県、豊田県	水田貯留事業等の推進(安城市)		
	防災・防災のための土地利用	豊田県、岡崎市	森林整備・保全の推進(豊田県・岐阜県・長野県)		
	土地利用規制・調整(災害危険区域等)	豊田県、岡崎市	立地適正化計画における「防災指針」の検討		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災拠点等の整備、広域防災ネットワークの 構築、水害作業準備計画の検証	豊橋河川事務所	防災拠点等の整備		
	避難確保計画検証計画の作成促進と避難の 確保対策	豊田県、岡崎市	避難確保計画の作成促進		
	「みずから守るプログラム」の普及促進	豊田県	「みずから守るプログラム」の普及促進		
	防災訓練、防災訓練の推進、ハザードマップの 作成、ハザードマップの作成、二つの水害 リスクに対する理解促進の取組	豊田県、岡崎市	住民の水害リスクに対する理解促進の取組		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスクの空白域の解消	豊橋河川事務所	水害リスク空白域の解消		
	土砂災害警戒区域等の指定・周知	豊田県、岐阜県、長野県	土砂災害警戒区域等の指定・周知		



【事業費(22年度以降の残事業費)】

- 河川対策
 - 全体事業費 約1,689億円 ※1
 - 対策内容 堤防整備、河道掘削、樹木伐採、堤防耐震対策、橋梁改築、遊水地整備、矢作ダム再生 等
 - 下水道対策
 - 全体事業費 約74億円 ※2
 - 対策内容 下水道等の排水施設整備、下水道施設の耐水化
- ※1: 直轄及び各圏域の河川整備計画の残事業費を記載
※2: 各市町における下水道事業計画の残事業費(汚水系含む)を記載

4. (4) ④ 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

■ 流域圏懇談会との関わり

第57回川部会において、「鵜の首地区水位低下対策事業」について、情報共有し、意見交換しました。



説明状況 ↓

意見交換状況 ↑

第57回 川部会における「矢作川鵜の首地区水位低下対策事業」説明（野見山展望台にて）2021年 8月17日



※「水位低下対策事業」は、下流（中流部・下流部）の河川維持整備を行いつつ、上下流のバランスを保ちながら進めます。

事業概要パンフより抜粋

矢作川(直轄区間上流部)の現状と課題

矢作川明治用水頭首工の上流36.8K~37.6K間は、**鵜の首と呼ばれる狭窄区間**が存在しています。

豊田市区間の川幅約200mに対して**狭窄部は約100mと川幅が狭く**、洪水が流れにくく、**豊田市街区間の水位上昇の要因**となっています。

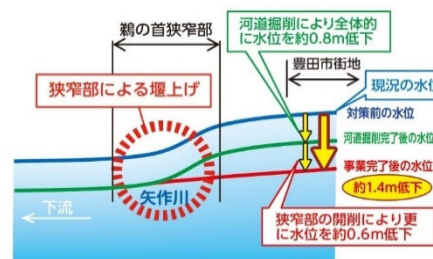


平成12年9月「東海豪雨(恵南豪雨)」の被害状況(豊田市森地区) ……

鵜の首地区水位低下対策の整備及び事業効果

- 鵜の首地区の**河床掘削、狭窄部開削**を実施することで、上流の豊田市街地(久澄橋下流:38.6k)で、**東海(恵南)豪雨(H12)において水位が約1.4m低下**します。
- これにより、豊田市街地(鵜の首地区上流区間)において東海豪雨(恵南豪雨)の被害が解消されます。

鵜の首狭窄部の整備イメージ



対策効果のイメージ(河川水位の縦断面)

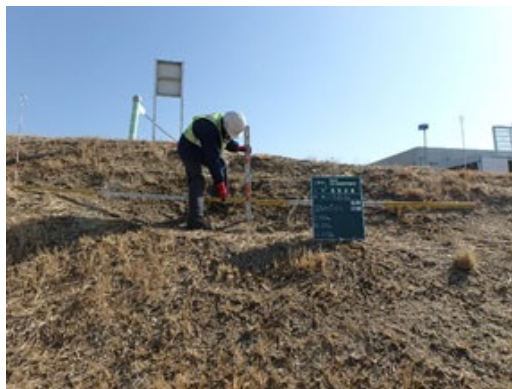
対策による水位低下効果(横断面)

4. (4) ④ 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

■ 事業の進捗状況（維持管理）



パトロールによる日常の巡視



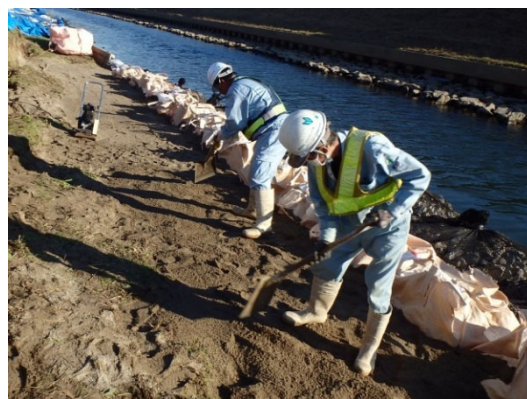
堤防点検の実施状況

◆ 堤防の健全性を点検

堤防の亀裂、法崩れ、漏水などの異常箇所を早期に発見するため、堤防除草や、出水期前の堤防点検を実施します。



堤防の補修作業状況



◆ 災害の未然防止

洪水時においても堤防や護岸の状況を監視し、異常が発見された場合は、速やかに水防工法等による緊急措置を実施できるように巡視を行い、破堤等による深刻な被害の発生を未然に防ぎます。

流域圏懇談会との関わり：【整備計画 第3章 第2節 河川の維持の目的、種類及び施工の場所】
… 地域住民や関係機関との調整・連携を図りながら、適切な維持管理を行う。

4. (4) ④ 治水 | 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

○防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策

平成30年7月豪雨を踏まえ、樹木繁茂・土砂堆積及び橋梁等による洪水氾濫の危険箇所等の緊急点検を行い、氾濫により著しい被害が生じる危険が高い箇所の樹木伐採を実施しています。



学識者との現地確認状況

● 流域圏懇談会との関わり

維持管理上の河道内樹木伐採に際しては、有識者等と合同の現地確認や、意見交換を実施しながら進めています。



樹木伐採箇所図

凡例

— : H30d,R1d,R2d(翌債含む)の樹木伐採箇所



伐採集積状況



積み込み運搬状況

4. (4) ⑤ 利水 | 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

■ 事業の進捗状況

- 河川環境の保全・改善や取水の安定化、水資源の有効利用のため、水量の監視を行うとともに、取水実態の把握を行っています。
- 矢作川における河川の適正な流水管理や水利用の現状と課題をふまえ、河川環境の保全や適切で効率的な取水が行われるように、日頃から関係機関及び水利使用者と情報交換を実施しています。
- 許可水利権について、水利権更新時に使用水量の実態や給水人口の動向などをふまえた、適正な水利権の許認可を実施しています。
- 渇水時において、矢作川水利調整協議会を開催し、水利調整を実施しています。

流域圏懇談会との関わり：【整備計画 第3章 第1節 第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項】
… 河川流量やダム貯水量等の情報をインターネット等を活用し、利水関係者、関係機関及び地域住民等に対して広く提供する。

4. (4) ⑥ 環境 | 河川環境の整備と保全に関する事項

(1) 自然再生事業

矢作川のかつての良好な自然環境を再生するため、河口部において干潟の再生やヨシ原の再生に取り組んでいます。

また、施工した場所はモニタリングを実施するなど、保全にも配慮します。

(2) 水辺整備事業

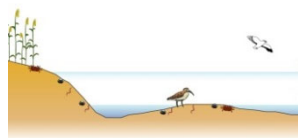
レクリエーション活動や憩い交流の場としての利活用の推進を図るため、水辺環境の整備を行っています。

豊田市白浜地区において、矢作川かわまちづくり整備を継続して実施します。

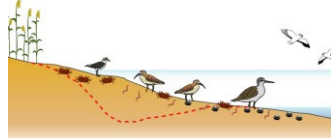
▽矢作川自然再生事業

実施箇所	内容	期間
河口部自然再生	ヨシ原・干潟の再生	H15-R7

取り組み前 (例 干潟)



取り組み後 (例 干潟)



砂を投入した干潟の造成 (対策イメージ図)

▽矢作川水辺整備事業

実施箇所	内容	期間
白浜水辺整備	緩傾斜堤防 高水敷整正 階段整備 樹木伐採	H30-R7



流域圏懇談会との関わり

【整備計画 第3章 第1節 第3項 河川環境の整備と保全に関する事項】

… 地域住民や関係機関等と調整・連携しバランスのとれた自然環境の保全と河川空間の適正な利用を図る。

4. (4) ⑦ 土砂管理 | 総合的な土砂管理に関する事項

●矢作川水系の土砂管理の取り組み

矢作川では、山から海までの土砂の移動を一貫として捉え、土砂の移動を総合的に把握することにより、土砂移動に関して必要な対策を検討しています。

矢作川の土砂に関する喫緊の問題は、平成12年の東海(恵南)豪雨等により、矢作ダムでは土砂堆積が著しく進行したため、治水・利水機能の低下を防止することが挙げられます。

そのための取り組みとして、「矢作川水系総合土砂管理検討委員会」を設立し、総合的な土砂管理の検討を行っています。



「総合土砂管理検討委員会」開催状況(平成31年3月)

●矢作川水系の土砂管理の検討

矢作川水系の一貫した土砂移動の連続性を可能な限り確保するため、土砂がどのように川を流下し、どのような効果・影響があるのかを検証しています。そのため、置土実験などを実施しながら総合的な土砂管理の手法について、検討を進めています。

今年度末には、笹戸堰堤上流「時瀬地区」及び笹戸堰堤下流「小渡地区」において、置土を予定しています。



時瀬地区置土状況(令和3年3月20日撮影)

●流域圏懇談会との関わり

第56・57回川部会及び第47回海部会において、「時瀬地区における置土実験」について、情報共有し、また、第58回川部会では、置土実験箇所(時瀬地区、越戸ダム下流)の視察を通して、情報共有と意見交換を行いました。

(参考)平成31年
置土状況↓



↑視察状況
(越戸ダム下流)



視察状況(時瀬地区)

流域圏懇談会との関わり：【整備計画 第3章 第1節 第4項 総合的な土砂管理に関する事項】

…土砂管理の推進にあたり、(中略)地域住民や関係機関との情報の共有を図りつつ、モニタリングを実施する。

4. (5) 意見交換①(今年度の活動に関するとりまとめ)



意見交換①

(今年度の活動に関するとりまとめ)

5. (1) 部会連携調整（通称：ミライ会議）発足について

【発足のきっかけ】

8月の山部会WG・FWが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になったことをうけ、今後の矢作川流域圏懇談会の停滞を避けるため、10年誌編集委員会に携わったメンバーが中心となり、次の10年を見据える議論を行うことになった。メンバーは浜口委員（10年誌編集委員長）、洲崎燈子委員（山）、近藤朗委員（川）、高橋伸夫委員（海）、事務局を中心に構成されている。

【会議のスケジュール】

- 第1回：令和3年8月27日 内容：会議の目的設定、いい川・いい川づくりWSへの参加、流域圏担い手づくり事例集
- 第2回：令和3年9月10日 内容：流域圏担い手づくり事例集取材先検討、公開講座の情報共有
- 第3回：令和3年10月13日 内容：各部会の進捗共有、懇談会の世代交代、公開講座の進め方
- 第4回：令和3年12月13日 内容：懇談会の人的資源、世代交代、組織体系に関する意見交換、根羽村が進める木育を目的とした体験プログラムに関する情報共有
- 第5回：令和4年1月19日 内容：流域圏担い手づくり事例集の取材先、とりまとめの進捗共有



22世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会による根羽村の体験プログラム

日	時間	内容
13	10:00~12:00	根羽村トータル林業等の話 ブレインストーミング
	13:00~16:00	①伐採現場 新井地区間伐 搬出
		②伐採現場 檜原地区皆伐 搬出
		③植栽現場 小柄地区植栽 スギ・ヒノキ・コウヨウザン
14	9:00~16:00	④森林空間 ネバーランド裏
		①薪 タガ詰め
		②薪に着火(河川敷でサウナ)
		③枝打ち作業
		④サウナ体験(サウナと清流)
		⑤表札づくり
⑥イスづくり		

5. (1) 部会連携調整（通称：ミライ会議）発足について

【検討内容】

- ・部会連携調整の役割は、各部会の進捗状況を共有するとともに、継続して活動できるよう、企画を検討した
- ・各部会における課題解決に向けて、現段階で何が必要か、今後どのようなことを議論すべきかを検討した
- ・流域連携のカギとなる流域圏担い手づくり事例集の動きをサポートできるよう、各種調整を行った

【具体的な検討の一例：各地域部会の実施場所の検討】

山部会：

ラムサール条約に指定されている豊田市の矢並湿地を次年度の10月のFWとして行ってみてはどうか。保全活動等を通して、山と川の双方の勉強になると思うので、合同で開催してはどうか。

⇒次年度の山部会の活動の一つとして整理

川部会：

境川水系逢妻男川の支流となるが、初音川ビオトープは、川と農地の関係（水質改善）を見学することができる。水制工をはじめとして、多自然川づくりの理想の姿となっているため、支川モデルの一つとして、川部会で訪れてはどうか。

⇒今年度、さっそく川部会のFWにて実施

海部会：

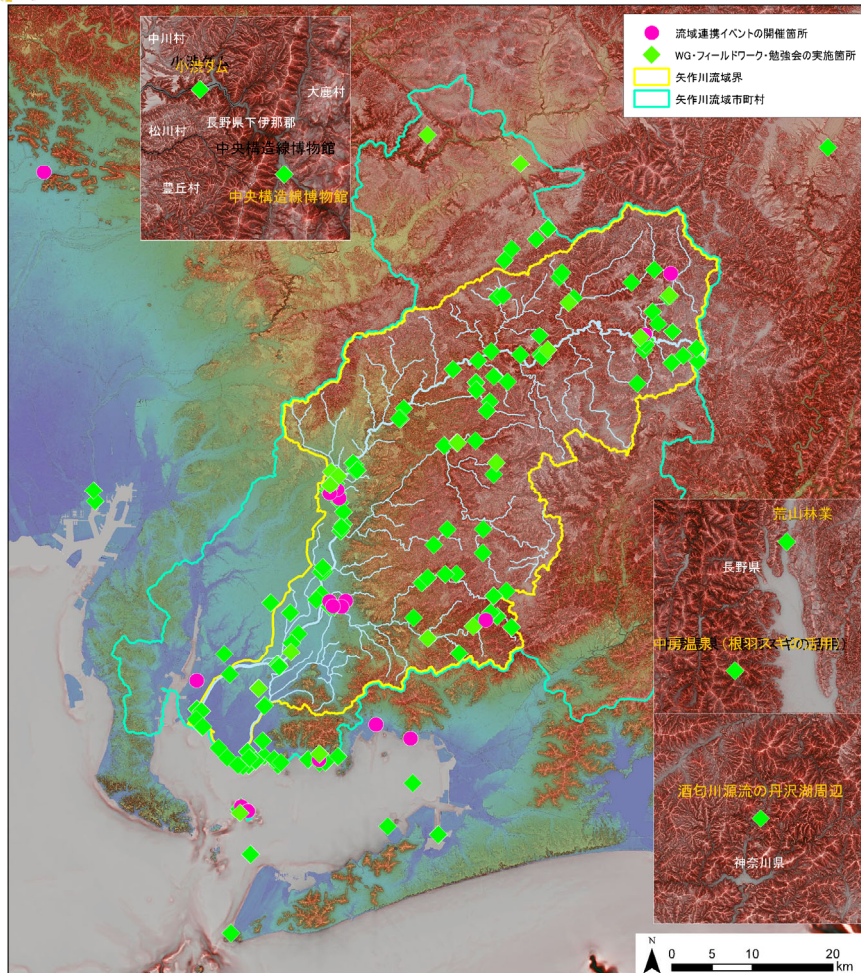
そろそろ豊川の自然再生事業が終わるので、その効果を海部会として確認したいというご意見を青木座長よりいただいている。また、部会員より、油が淵でのFWを行いたいという希望があった。

⇒次年度の海部会の活動の一つとして整理

5. (1) 部会連携調整 (通称: ミライ会議) 発足について



2010年~これまでに**284回**の活動・会議を開催し、のべ**6,500人**が参加!



WG・フィールドワーク・勉強会実施場所
流域連携イベント開催場所

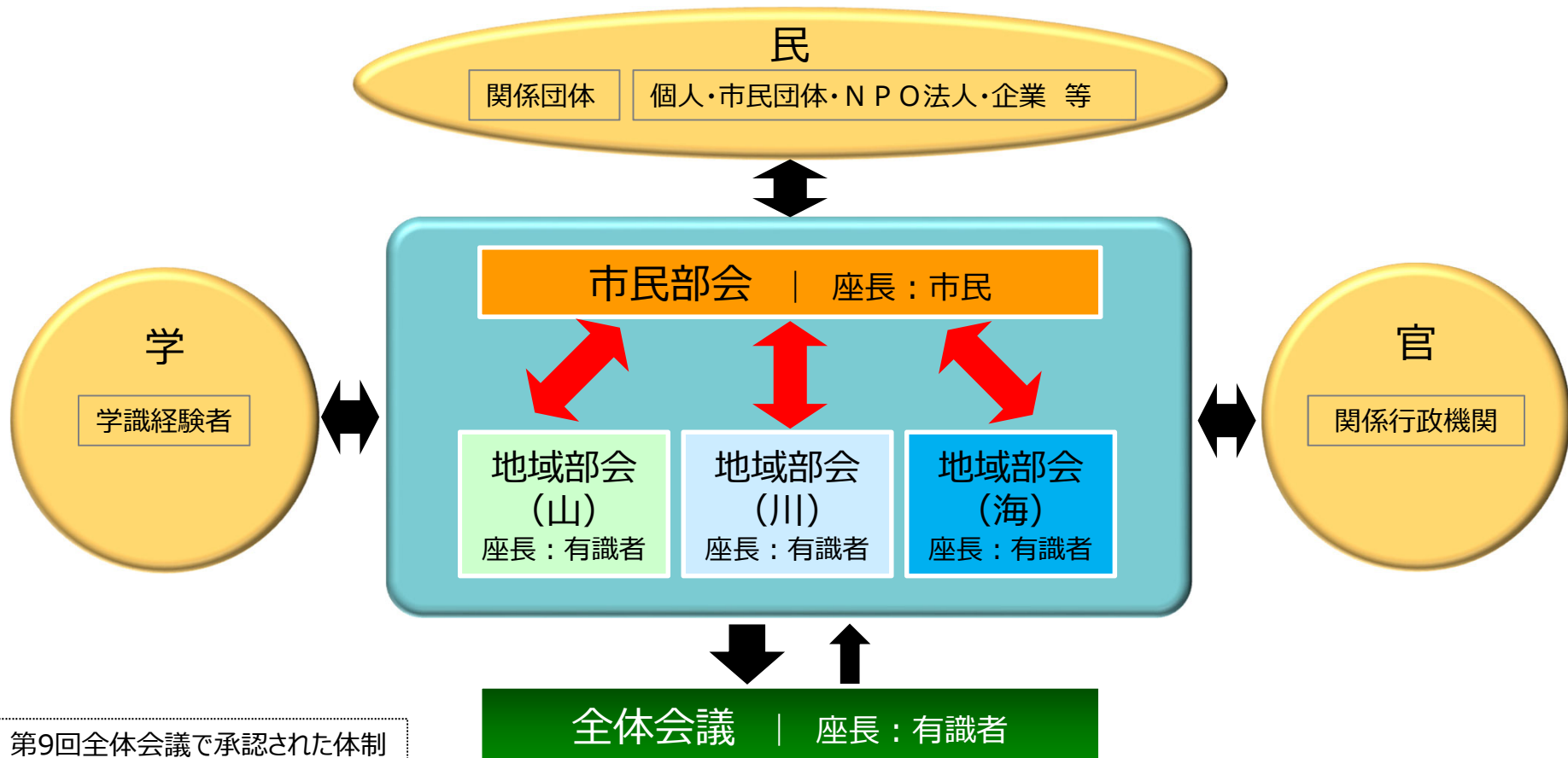
フィールドワーク・勉強会・流域連携イベントの実施場所

長野県	愛知県	岐阜県	静岡県	
安曇野市 中房温泉 大玉わさび農園	矢作ダム 貯砂ダム 土砂の有効利用場所など 時瀬 給砂実験場	上矢作農業集落センター アライダシ原生林 松下薪材間伐作業現場	宮サキ園 くらがり溪谷 岡崎市ホテル学校 乙川(鍛冶町地先) 「西風橋」周辺 毛呂川 千方町町の人工林 千方町茅葺屋敷 野生散策施設 切山の杉 河内内樹木伐採計画箇所 ウッドデザインパーク 間伐材利用コンクール会場 (イオンモール岡崎) 第三さくら幼稚園 日名橋下流 美矢井橋下流 美栗川を美しくする会 整備地区「ぬかた木望の森」	
大町市 荒山林業 中川村 小波ダム	小波町河畔林、有間町河畔林 阿指ダム及び下流ソジバ河床環境改善実験場 加塩地域の「団地化」と「利用開伐」	「喉の滝」前落現場 えなの森林づくり間伐モデル林 (道の駅 上矢作 ラフォーレ福寿の里) NPO法人福寿の里自然倶楽部	岡崎市 豊田森林組合木材センター お試し体験住宅「板取の家」 豊田森林組合木材センター 2戸2住宅造成予定地 農山村対応応援住宅 「あいち森と緑づくり事業」による間伐地 豊田市里山くらし体験館「すげの里」 あすけ里山ユースホステル 足助きり道 萩野NPO結の家「工房」 トクナン木工塾、足助川 はぎの森の健康診断 報告会	
大鹿村 中央構造線博物館 飯田市 天竜川	根羽村水源の森(分収育林事業) 根羽川源流 根羽村産地 根羽村老人福祉センター 「しやくなげ」 ネバーランド サンホール 根羽村役場・村議会場 低コスト造林試験地 小戸名地区における沢抜け箇所 根羽の里「なごみ」 信州大学研究フィールド 帯状間伐の実施状況	福寿の里モンゴル村 福寿の清水 奥矢作レクリエーションセンター くしほら田舎暮らし体験館 結の家 貯砂ダム土砂搬出箇所(矢作ダム) 明智城址 HYAKKEI(百経) 茅の宿とみだ 農村景観日本一地区(花白温泉) やまおか木の駅プロジェクト土場 恵那市消防防災センター 恵那市飯地町内 太陽光発電各所(5箇所)	安城市 豊東川 新幹線下流側に残る矢作川砂河川風景 矢作川14.5km地点付近 藤井床工下流 安城市・碧南市 油ヶ淵 矢作川河口部右岸(碧南市側) 碧南市 大浜漁港 矢作川・矢作古川分派箇所、分派堰建設箇所 矢作古川頭首工 矢作古川河口部 矢作川河口部一帯、ヨシ再生箇所 矢作川千湯再生箇所 矢作川浄化センター 人工干潟(一色さかな広場西側) 衣崎漁港 一色干潟 佐久島(白浜海岸、弁天サロ、クラインガルテンなど) 吉良歴史民俗資料館 吉田海岸、寺部海岸、宮崎漁港、吉良口イキキビーチ 東幡豆漁協、東幡豆東浜、トンボ口干潟、煎島	
平谷村 矢作川支川柳川周辺	あさひ製材協同組合 あさひ森の健康診断 報告会 農家長宿ちんちゃん亭 お試し体験住宅「板取の家」 豊田森林組合木材センター	天下杉 根羽村の林業に関連する施設	知立市 猿渡川 安城市 安城図書館 アンフォーレ 矢作川河口部右岸(碧南市側) 碧南市 大浜漁港 矢作川・矢作古川分派箇所、分派堰建設箇所 矢作古川頭首工 矢作古川河口部 矢作川河口部一帯、ヨシ再生箇所 矢作川千湯再生箇所 矢作川浄化センター 人工干潟(一色さかな広場西側) 衣崎漁港 一色干潟 佐久島(白浜海岸、弁天サロ、クラインガルテンなど) 吉良歴史民俗資料館 吉田海岸、寺部海岸、宮崎漁港、吉良口イキキビーチ 東幡豆漁協、東幡豆東浜、トンボ口干潟、煎島	
根羽村	根羽村森林組合 木材乾燥施設など 根羽村森林組合 山地酪農実験地など 根羽村杉住宅 つたの滝 浅間神社 桜の庭 グリーンハウス森沢 モデル住宅	岐阜市 矢作川合流点~京町 矢作川・高橋上流(瀬と淵、ワンド) 矢作川本川(寺部地区、千石公園) 矢作川豊田大橋下 矢作川感謝祭 矢作川本川(白浜工区) 矢作川豊田防災ステーション 加茂川合流点段差解消市民工工事 矢作川本川(御立公園、長興寺地区) 矢作川本川(野見工区)河道掘削箇所 安永川排水樋門 明治用水頭首工 矢作川本川(濠合地区災害復旧現場、及び対岸地区) 家下川下流域及び農業用水路、柳川瀬公園 家下川(末野原より下流) 冊館、ゴンゾレトレイル 宮崎学区市民ホーム 宮崎財産区林 巴山・分水嶺 長坂100年長伐期林・ミツマタ長伐期林 デイヴィット・ストーンズ氏自宅 「みかわエコ館」の薪倉庫 おかざき森の健康診断 報告会 ぬかた体験村	恵那市 矢作川合流点~京町 矢作川・高橋上流(瀬と淵、ワンド) 矢作川本川(寺部地区、千石公園) 矢作川豊田大橋下 矢作川感謝祭 矢作川本川(白浜工区) 矢作川豊田防災ステーション 加茂川合流点段差解消市民工工事 矢作川本川(御立公園、長興寺地区) 矢作川本川(野見工区)河道掘削箇所 安永川排水樋門 明治用水頭首工 矢作川本川(濠合地区災害復旧現場、及び対岸地区) 家下川下流域及び農業用水路、柳川瀬公園 家下川(末野原より下流) 冊館、ゴンゾレトレイル 宮崎学区市民ホーム 宮崎財産区林 巴山・分水嶺 長坂100年長伐期林・ミツマタ長伐期林 デイヴィット・ストーンズ氏自宅 「みかわエコ館」の薪倉庫 おかざき森の健康診断 報告会 ぬかた体験村	蒲都市 西の浜海岸 藤前干潟 名古屋市 名古屋環境局南陽工場 三重県 三重県 鳥羽市 答志島奈佐の浜海岸 神奈川 山北町 酒匂川源流の丹沢湖周辺
岐阜県	上矢作農業集落センター アライダシ原生林 松下薪材間伐作業現場 「喉の滝」前落現場 えなの森林づくり間伐モデル林 (道の駅 上矢作 ラフォーレ福寿の里) NPO法人福寿の里自然倶楽部	岐阜市 矢作川合流点~京町 矢作川・高橋上流(瀬と淵、ワンド) 矢作川本川(寺部地区、千石公園) 矢作川豊田大橋下 矢作川感謝祭 矢作川本川(白浜工区) 矢作川豊田防災ステーション 加茂川合流点段差解消市民工工事 矢作川本川(御立公園、長興寺地区) 矢作川本川(野見工区)河道掘削箇所 安永川排水樋門 明治用水頭首工 矢作川本川(濠合地区災害復旧現場、及び対岸地区) 家下川下流域及び農業用水路、柳川瀬公園 家下川(末野原より下流) 冊館、ゴンゾレトレイル 宮崎学区市民ホーム 宮崎財産区林 巴山・分水嶺 長坂100年長伐期林・ミツマタ長伐期林 デイヴィット・ストーンズ氏自宅 「みかわエコ館」の薪倉庫 おかざき森の健康診断 報告会 ぬかた体験村	静岡県	

5. (2) 今後の体制等について

■ 体制図

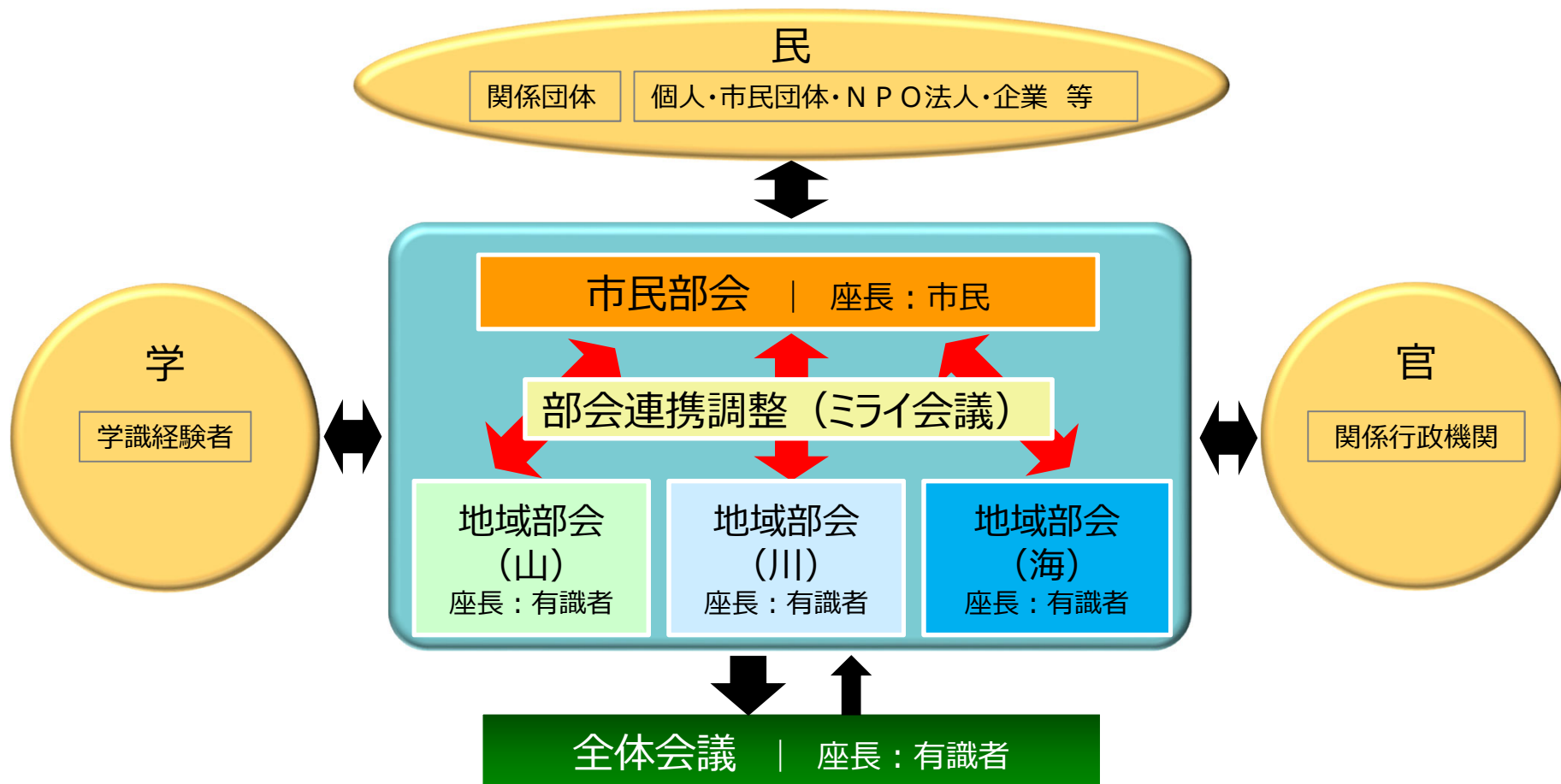
- 市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。
- 地域部会のWG・フィールドワーク等は必要に応じて開催するものとし、市民部会発の勉強会を行う。



5. (2) 今後の体制等について

■ 体制図

- 市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。
- 地域部会のWG・フィールドワーク等は必要に応じて開催するものとし、市民部会発の勉強会を行う。



5. (2) 今後の体制等について

■ スケジュール案

- 市民部会は、WG3回、まとめの会1回の実施とともに、バスツアーを1回行う。また、公開講座の実施を検討する。
- 勉強会と流域連携イベントの実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 地域部会WGは、山3回、川2回、海2回を基準として開催する。フィールドワークは随時実施する。また、今まで通り総括として全体会議に向けた「まとめの会」を12月頃に実施する。
- 部会連携調整（通称：ミライ会議）を5回開催する。今後の流域圏の在り方等を検討、支援する。
- 全体会議を2月に実施し、一年間の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- 流域連携に関するイベントを3回実施する。
①矢作川感謝祭（夏） ②“いい川”・“いい川づくり”WS（秋） ③三河湾大感謝祭（秋）

体制・イベント		月													
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2			
市民部会	WG 勉強会		←	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→		
	まとめの会											●			
地域部会	WG フィールドワーク		←	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→	
	まとめの会											●			
全体会議	話し合いの会														★
部会連携調整	ミライ会議		←	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→
流域連携に関するイベント							①	②	③						

6.意見交換②(今後の展望・全体のまとめ)

意見交換②



(今後の展望・全体のまとめ)

7. 情報共有・連絡事項など

情報共有・連絡事項など



8. 閉会

調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて

矢作川流域圏懇談会は、設立11年を経過し、流域内外にその存在意義を伝えていきます。特に今年度は、2回の公開講座を通し、全国規模で活動を行うことができました。コロナ禍でありながら、大きな飛躍であります。

引き続き、この流域圏懇談会で情報を共有し、また、多くの人々への情報発信ができるよう、ご支援をお願い致します。

【矢作川河川整備計画】

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第3節 調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けた取り組み

矢作川流域では、過去から住民が一体となって流域圏という考え方のもと様々な諸課題に取り組んできた歴史がある。

今後、矢作川における治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理等の諸課題を解決し整備計画の目標を達成していくためにも“流域は一つ、運命共同体”という共通認識を持ち、調和のとれた流域圏全体の持続的発展を目指す必要がある。

このためには、学識者や森林組合、漁業協同組合、土地改良区、企業、市民団体、NPO等の各種団体、国、県、市町村の関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組む必要がある。